

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年3月29日

【事業年度】 第20期(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

【会社名】 株式会社才口

【英訳名】 O R O C o . , L t d .

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 川田 篤

【本店の所在の場所】 東京都目黒区目黒三丁目9番1号

【電話番号】 03-5724-7001 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 管理本部長 日野 靖久

【最寄りの連絡場所】 東京都目黒区目黒三丁目9番1号

【電話番号】 03-5724-7001 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 管理本部長 日野 靖久

【縦覧に供する場所】 株式会社才口 西日本支社
(大阪市中央区伏見町4丁目4番1号)
株式会社才口 中部支社
(名古屋市中区錦2丁目15番19号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第17期	第18期	第19期	第20期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月
売上高 (千円)	1,878,811	3,053,219	3,375,747	3,910,462
経常利益 (千円)	198,655	677,713	705,911	840,634
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	138,942	452,725	461,043	574,371
包括利益 (千円)	159,869	438,398	437,685	582,974
純資産額 (千円)	1,058,419	1,496,818	1,934,504	4,707,538
総資産額 (千円)	1,440,117	2,215,854	2,560,612	5,376,981
1株当たり純資産額 (円)	175.54	248.84	322.39	567.17
1株当たり 当期純利益金額 (円)	23.16	75.45	76.84	73.99
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	73.1	67.4	75.5	87.5
自己資本利益率 (%)	14.3	35.6	26.9	17.3
株価収益率 (倍)	-	-	-	29.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	299,252	587,629	104,008	876,332
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	39,208	36,106	34,976	431,585
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	6,630	-	-	2,178,058
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	680,093	1,220,245	1,270,694	3,899,685
従業員数 (名)	286	294	317	337

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
3. 当社は平成29年3月24日に東京証券取引所マザーズ市場へ上場したため、株価収益率は第17期から第19期までの当社株式が非上場であることから記載しておりません。
4. 第17期以降の連結財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。
5. 当社は、平成26年12月19日開催の臨時株主総会決議により、決算期を3月31日から12月31日に変更しました。この変更は、海外子会社と決算期を統一することで、経営情報の適時・的確な開示を徹底し、当社グループの予算編成や業務管理等、事業運営の効率化を図るためであります。第17期は平成26年4月1日から平成26年12月31日の9か月間となっております。
6. 当社は、平成28年12月31日付で普通株式1株につき5,000株の割合で株式分割を、また、平成29年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、第17期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。
7. 従業員数は就業人員（当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む）であり、臨時雇用者数は、従業員数の100分の10未満であるため、記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期
決算年月	平成26年3月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月
売上高 (千円)	2,415,181	1,751,646	2,978,817	3,260,565	3,703,571
経常利益 (千円)	216,880	155,350	621,269	674,117	749,741
当期純利益 (千円)	124,081	105,432	401,514	429,402	505,898
資本金 (千円)	90,000	90,000	90,000	90,000	1,185,030
発行済株式総数 (株)	600	600	600	3,000,000	8,300,000
純資産額 (千円)	795,522	901,166	1,303,421	1,700,781	4,398,473
総資産額 (千円)	1,189,808	1,293,553	1,995,414	2,319,712	5,014,028
1株当たり純資産額 (円)	1,325,870.39	150.19	217.24	283.46	529.94
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	15.00 (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	206,802.44	17.57	66.92	71.57	65.17
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)				-	-
自己資本比率 (%)	66.9	69.7	65.3	73.3	87.7
自己資本利益率 (%)	16.9	12.4	36.4	28.6	16.6
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	33.2
配当性向 (%)	-	-	-	-	23.0
従業員数 (名)	210	213	226	188	199

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
3. 当社は平成29年3月24日に東京証券取引所マザーズ市場へ上場したため、株価収益率は第16期から第19期までの当社株式が非上場であることから記載しておりません。
4. 第17期以降の財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けておりますが、第16期の財務諸表については、会社計算規則(平成18年法務省令第13号)に基づき算出しており、金融商品取引法第193条の2第1項の規定による監査を受けておりません。
5. 当社は、平成26年12月19日開催の臨時株主総会決議により、決算期を3月31日から12月31日に変更しました。この変更は、海外子会社と決算期を統一することで、経営情報の適時・的確な開示を徹底し、当社グループの予算編成や業務管理等、事業運営の効率化を図るためであります。第17期は平成26年4月1日から平成26年12月31日の9か月間となっております。
6. 当社は、平成28年12月31日付で普通株式1株につき5,000株の割合で株式分割を、また、平成29年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、第17期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。
7. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む)であり、臨時雇用者数は、従業員数の100分の10未満であるため、記載しておりません。

2 【沿革】

当社は、平成11年1月東京都荒川区において統合基幹業務システムの開発、販売を目的とする会社として、現在の株式会社オロの前身である「有限会社オロ」を創業いたしました。その後、平成12年9月に本社を東京都港区に移転し、「株式会社オロ」へ組織変更いたしました。株式会社オロの設立以後の沿革は、次のとおりであります。


年月	概要
平成12年9月	「有限会社オロ」を株式会社に改組し、「株式会社オロ」を設立
平成16年8月	ウェブサイト構築、運用保守業務を開始
平成17年12月	情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)認証取得
平成18年6月	SaaS対応型 ERPパッケージ「ZAC Enterprise」を開発、販売開始
平成18年9月	本店を東京都目黒区(現本店所在地)に移転
平成19年7月	プライバシーマーク付与認定取得 大阪支社(現：西日本支社)開設
平成20年3月	北海道支社開設
平成22年1月	中国現地法人 欧楽科技(大連)有限公司 設立(現：連結子会社)
平成22年2月	環境マネジメントシステム(EMS)認証取得
平成24年3月	宮崎サポートセンター開設
平成24年9月	中部支社開設
平成24年12月	マレーシア現地法人 ORO Malaysia Sdn. Bhd. 設立(現：連結子会社)
平成25年1月	ベトナム現地法人 ORO Vietnam Co., Ltd. 設立(現：連結子会社)
平成25年5月	シンガポール現地法人 ORO Technology Singapore Pte. Ltd. 設立(現：連結子会社)
平成26年7月	タイ現地法人 ORO (Thailand) Co., Ltd. 設立(現：連結子会社)
平成28年1月	台湾現地法人 台湾奥楽股分有限公司 設立(現：連結子会社)
平成28年5月	中国現地法人 大連奥楽広告有限公司 設立(現：連結子会社)
平成28年9月	株式会社オロ宮崎 設立(現：連結子会社)
平成29年3月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
平成30年3月	東京証券取引所市場第一部へ市場変更

3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社、連結子会社である欧楽科技(大連)有限公司、ORO Vietnam Co.,Ltd.、ORO Malaysia Sdn.Bhd.、ORO(Thailand)Co.,Ltd.、台湾奥樂股分有限公司、大連奥樂廣告有限公司、株式会社オロ宮崎、及びORO Technology Singapore Pte. Ltd.(休眠会社)の計9社で構成されております。

また、当社グループは創業以来、「より多くの幸せ・喜びを提供する企業」になることを経営理念と定め、事業運営を行っております。その実現のために「Technology×Creative」をスローガンに最先端の技術分野に挑戦し続け、テクノロジー・オリエンテッド・カンパニー(技術志向の企業)として、企業の内側と外側を強くするソリューションを提供しております。

オロの事業領域

ビジネスソリューション事業  の開発・提供	コミュニケーションデザイン事業 戦略立案、ウェブ構築・運用、システム開発、ウェブ広告運用
クラウドERPによる経営管理支援 <ul style="list-style-type: none"> ■ 業務オペレーションの効率化 ■ プロジェクト管理レベルの向上 ■ 管理会計にもとづく的確な経営判断 	デジタルを基軸にしたマーケティング支援 <ul style="list-style-type: none"> ■ 企業価値、ブランド価値の向上 ■ マーケティング活動のデジタル化を促進 ■ グローバルビジネスを加速

「ビジネスソリューション事業」は、クラウドサービス(注1)により提供される業務システムの開発・販売等を通じて、企業・組織における効率化や生産性向上等の業務課題の解決を支援しております。また、「コミュニケーションデザイン事業」は、ウェブを活用した企業のマーケティング全般を支援するウェブマーケティング(注2)、ウェブサイト及びウェブシステムの企画・構築・運用を行うウェブインテグレーション(注3)を通じて、企業のブランド価値向上やマーケティング活動等のデジタル化を支援しております。

当社グループの特長は、効率化・生産性向上等を目的とした企業の内側を強くするソリューションとマーケティングやブランド向上を目的とした企業の外側を強くするソリューションの両方を持ち合わせており、企業のデジタル化をトータルに支援できる点にあります。

従来のウェブにおいては、テキスト・画像等の情報の見やすさが主に求められていましたが、近年では情報の提供と機能の提供が切り離せない形で同時に提供されることが求められてきており、その実現のためにはクリエイティブ制作力と同時に、システム開発力が重要となってきております。

一方、企業内部において業務処理に利用される業務システム周辺分野にも、インターネット基盤を利用するクラウドサービス・SaaS(注4)形式のものが主流になりつつあります。ウェブブラウザ上で稼働する業務システムにおいては、正しく・安定した動作をするという基本要件以外に、使いやすさ・わかりやすさを重視したユーザーインターフェースを備えているか等、ユーザーオリエンテッド(利用者志向)なシステムであることが、システム利用の定着、システムを活用した業務の生産性向上を考える際の重要な要件となっております。

当社グループは、ビジネスソリューション事業とコミュニケーションデザイン事業の2つのセグメントに分類しております。なお、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に掲げるセグメントと同一の区分であります。

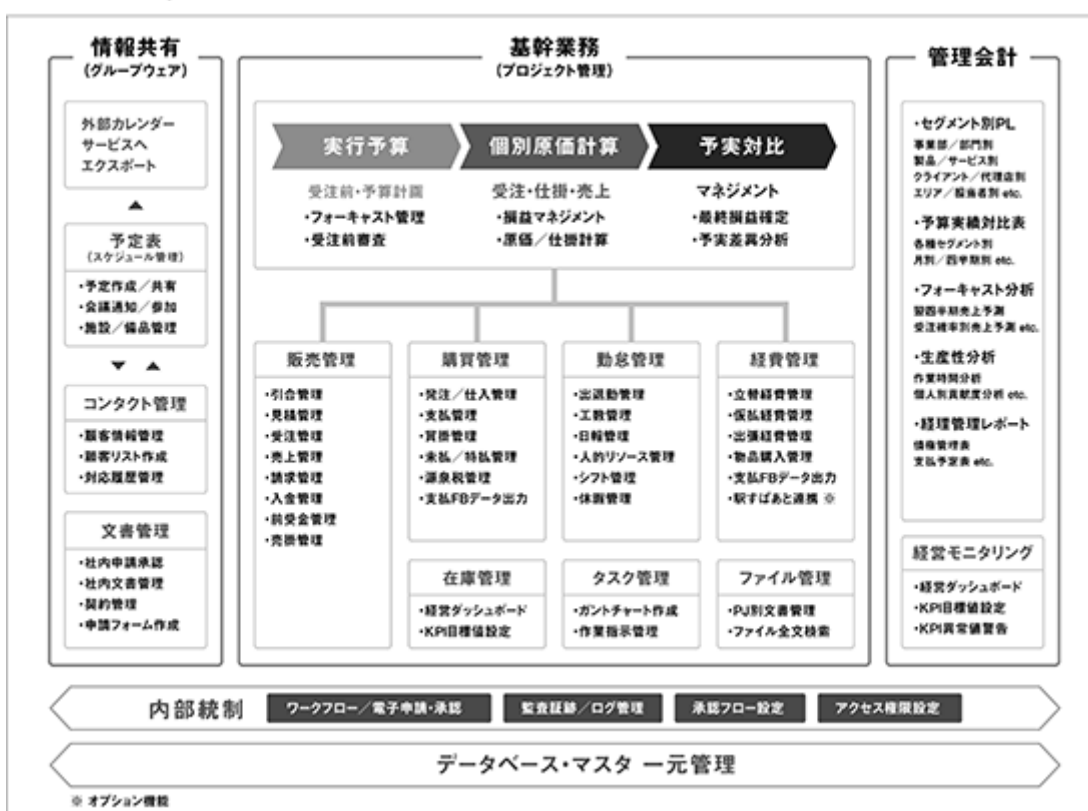
1) ビジネスソリューション事業

「ビジネスソリューション事業」では、企業・組織における効率化や生産性向上等の業務課題を解決するソリューション及びサービスの提供を事業としています。具体的には、クラウドサービスにより提供されるERP(注5)パッケージ「ZAC Enterprise」及び「Reforma PSA(注6)」の開発・販売、ITインフラの構築・運用業務、企業のIT戦略を立案・提案するITアドバイザリー業務等を提供しております。

「ZAC Enterprise」

「ZAC Enterprise」は、企業内における販売・購買・勤怠等の各種業務処理の効率化を支援する統合基幹業務システムです。業務オペレーションの効率化、収支管理レベルの向上、内部統制、管理会計に基づく経営判断の支援等の導入メリットを実現すると考えます。

「ZAC Enterprise」の主要な機能



「ZAC Enterprise」では製品設計において「パラメータ設計」を採用しております。「パラメータ設計」では、多数の業種において必要とされた機能や、商習慣に対応するための機能を一つ一つのパラメータという項目によりシステム内に搭載する考え方で、ユーザー企業は自社の機能要件に合致するパラメータを選択・調整することで自社の業務に適合するシステムを作り上げることが可能となっており、主要な機能はあらかじめパラメータ化されているため、個別開発を行うことなく利用可能となります。パラメータは、ユーザー企業からの要望や、経営環境の変化に対応し日々追加・拡充されていくためユーザー企業の集合知によって、継続的に機能強化が行われる設計となっております。

パラメータ設計の機能優位性



当製品のユーザー企業は、広告業・ITサービス/ソフトウェア開発業・コンサルティング業に代表されるプロジェクト型ビジネス・知的労働サービス業が中心となっております。販売につきましては、当社グループによる直接販売に加え、大手ソフトウェアベンダーや商社等の販売代理店を経由した間接販売も行っております。

「Reforma PSA」

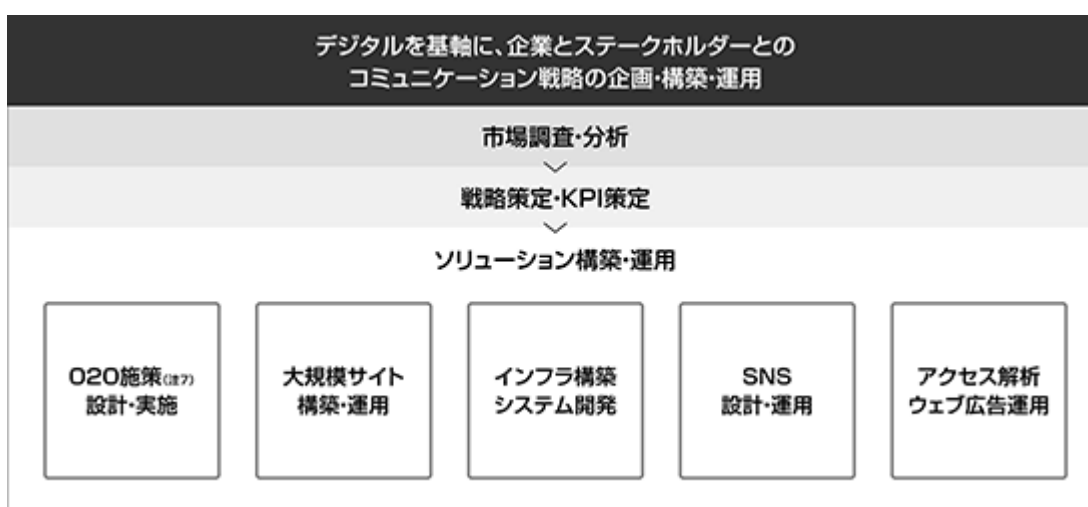
「Reforma PSA」は、「ZAC Enterprise」を中小企業向けに限定して提供するサービスです。「Reforma PSA」は、当社が標準的なパラメータを予め設定し、導入企業それぞれの要望にあわせてパラメータの変更やカスタマイズ等を行わないことで、顧客企業に対し標準の講習のみで導入可能とした製品です。

当製品のユーザー企業は、「ZAC Enterprise」の顧客企業の業種と同一ですが、当製品の対象は中小企業となっております。販売につきましては、専任の営業を置かずウェブサイトからのオンラインによる販売となっております。

2) コミュニケーションデザイン事業

「コミュニケーションデザイン事業」では、ウェブを活用し組織・企業のマーケティング全般を支援するウェブマーケティングと、ウェブサイト及びウェブシステムの企画、構築、運用を行うウェブインテグレーションの2つをソリューションとして提供しております。

これらのソリューションを通じて、マーケティング、採用活動、広報、IR、社内コミュニケーション等、組織・企業のコミュニケーション戦略の立案・実行を支援しております。



当社グループは、大規模ウェブサイト、ウェブシステムの運用に係るこれまで培ってきた知見を活かしております。取り扱い製品や店舗拠点数が多い企業のウェブサイトにおいては、商品情報の更新や、拠点・店舗ごとのサイト・ページ情報の制作・更新等、日々大量のウェブサイトの修正・更新作業等が発生します。当社グループでは大規模サイト運用に特化したオペレーションチームを配置し支援を行っております。あわせて、当社グループでは東

南アジア、中国の連結子会社を活用した海外進出支援・マーケティング支援、インバウンド集客支援に強みを持っております。

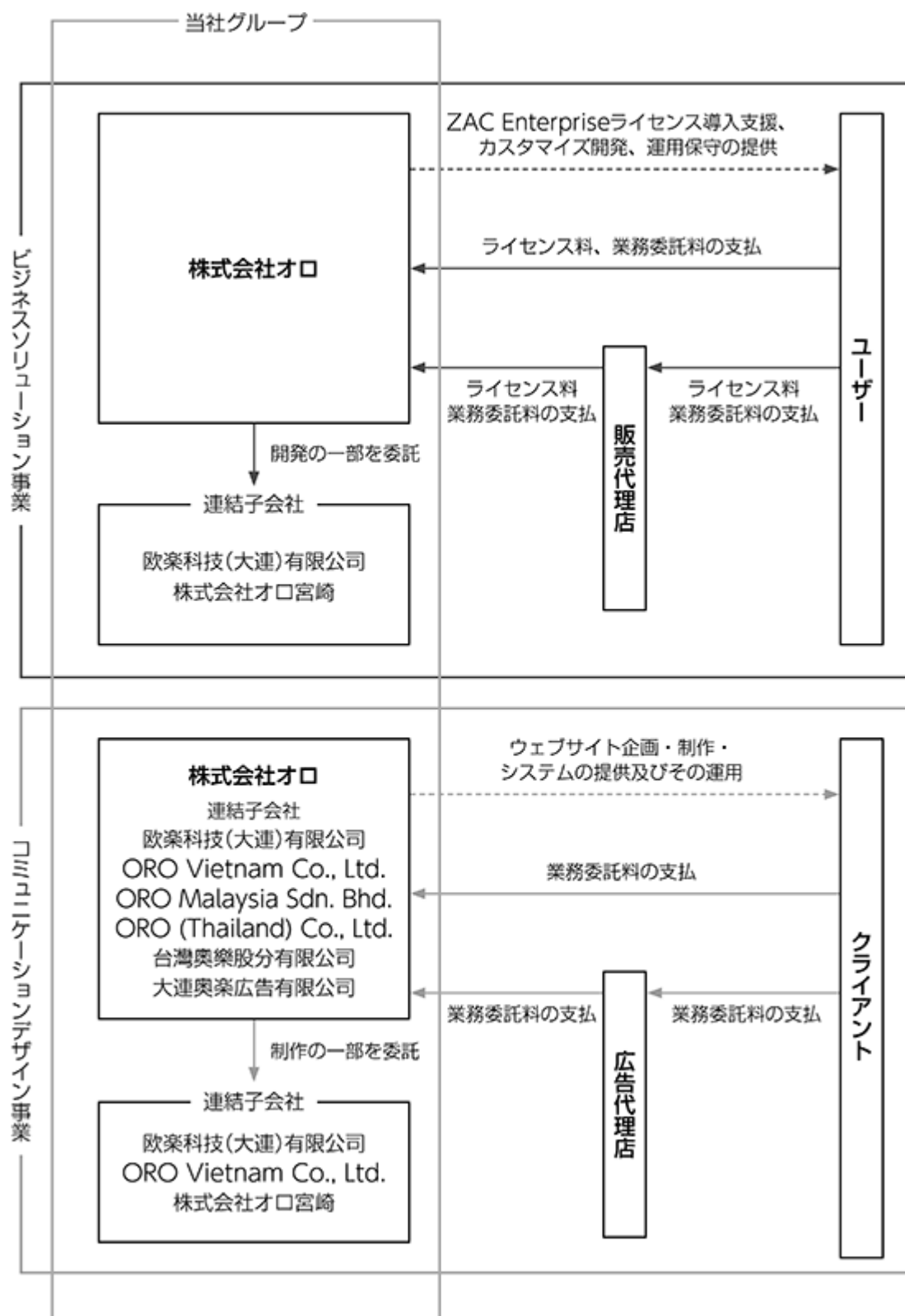
当事業の顧客企業は、業種を問わず大企業が中心となっております。販売につきましては、当社グループによる直接販売に加え、大手広告代理店等の提携先を経由した間接販売も行っております。

- (注) 1. クラウドサービス：インターネットを経由し、ソフトウェア等のサービスを利用するコンピュータの利用形態を指します。
2. ウェブマーケティング：ウェブサイトやウェブ技術を活用したマーケティング手法のこと。ウェブサイトによる自社ブランドや製品の告知、ウェブサイトにおける商取引(EC)、ウェブサイトを窓口にした顧客との双方向の情報交換、ウェブサイトを活用した市場調査やマーケティングリサーチ等、ウェブを活用したマーケティング活動全般を指します。
3. ウェブインテグレーション：顧客の課題や要望にあわせて、ウェブサイト及びウェブシステムの企画、構築、運用等を一括して行うこと。必要なハードウェア・ソフトウェアの選定・導入、保守・更新・管理まで総合的に行います。
4. SaaS：Software as a Serviceは、必要な機能を必要なだけサービスとして利用できるようにしたソフトウェアもしくはその提供形態のこと。一般的にはインターネット経由に必要な機能を利用する仕組みになっているものを指します。
5. ERP：Enterprise Resource Planningは、企業全体を経営資源の有効活用の観点から統合的に管理し、経営の効率化を図るための手法・概念のこと。これを実現するための統合型(業務横断型)ソフトウェアを「ERPパッケージ」と呼びます。
6. PSA：Professional Services Automationは、21世紀に入ってから提唱された概念で、IT・コンサルタント・クリエイター等、プロジェクトを中心とした知的サービスの事業者を支援するソリューション(ソフトウェア)のこと。ERPをプロジェクト型ビジネスに特化させたものを「PSA」と呼びます。
7. O2O施策：Online to Offline施策は、インターネット上(オンライン)からインターネット外の実世界(オフライン)での行動へと促す施策のことを指します。

当社グループの事業内容と当社又は連結子会社の当該事業における位置づけ及びセグメントとの関係は以下のとおりであります。

セグメントの名称	会社名	主な事業内容
ビジネスソリューション事業	当社	クラウドサービスにより提供されるERPパッケージ「ZAC Enterprise」及び「Reforma PSA」の開発・販売、ITインフラの構築・運用業務、企業のIT戦略を立案・提案するITアドバイザー業務等を提供
	欧楽科技(大連)有限公司 株式会社オロ宮崎	ZAC Enterpriseの開発業務の一部を受託
コミュニケーションデザイン事業	当社	日本国内におけるウェブサイト及びウェブシステムの企画、構築、運用を行うウェブインテグレーションとウェブを活用し組織・企業のマーケティング全般を支援するウェブマーケティングを提供
	欧楽科技(大連)有限公司 大連奥楽广告有限公司	コミュニケーションデザイン事業における制作業務の一部を受託並びに、中国国内におけるウェブサイト制作、システム設計・開発・販売、インバウンド業務支援
	ORO Vietnam Co., Ltd.	コミュニケーションデザイン事業における制作業務の一部を受託並びに、ベトナム国内におけるウェブサイト制作、システム設計・開発・販売、インバウンド業務支援
	ORO (Thailand) Co., Ltd.	タイ国内におけるウェブサイト制作、システム設計・開発・販売、インバウンド業務支援
	ORO Malaysia Sdn. Bhd.	マレーシア国内におけるウェブサイト制作、システム設計・開発・販売、インバウンド業務支援
	台湾奥楽股分有限公司	台湾国内におけるウェブサイト制作、システム設計・開発・販売、インバウンド業務支援
	株式会社オロ宮崎	コミュニケーションデザイン事業における制作業務の一部を受託

当社グループの事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有(又は被所有)割合(%)	関係内容
(連結子会社) 欧楽科技(大連)有限公司 (注)6	中華人民共和国 遼寧省大連市	70,000 USドル	ビジネスソリューション事業 コミュニケーションデザイン事業	100.0	当社のビジネスソリューション事業やウェブ制作の一部等を委託しております。役員の兼任4名
(連結子会社) ORO Vietnam Co., Ltd.	ベトナム ホーチミン市	100,000 USドル	コミュニケーションデザイン事業	100.0	ウェブ制作の一部等を委託しております。資金の貸付をしております。役員の兼任3名
(連結子会社) ORO Malaysia Sdn. Bhd.	マレーシア クアラルンプール	500,000 マレーシア リンギット	コミュニケーションデザイン事業	100.0	ウェブ制作の一部等を委託しております。資金の貸付をしております。役員の兼任2名
(連結子会社) ORO (Thailand) Co., Ltd. (注)3.4	タイ バンコク	4,000,000 タイバーツ	コミュニケーションデザイン事業	49.0 [41.0]	ウェブ制作の一部等を委託しております。資金の貸付をしております。役員の兼任1名
(連結子会社) 台湾奥樂股分有限公司	台湾台北市	5,000,000 台湾ドル	コミュニケーションデザイン事業	100.0	ウェブ制作の一部等を委託しております。役員の兼任2名
(連結子会社) 大連奥樂廣告有限公司 (注)5	中華人民共和国 遼寧省大連市	1,000,000 人民元	コミュニケーションデザイン事業	100.0 (100.0)	ウェブ制作の一部等を委託しております。役員の兼任3名
(連結子会社) 株式会社オロ宮崎 (注)6	宮崎県宮崎市	10,000 千円	ビジネスソリューション事業 コミュニケーションデザイン事業	100.0	当社のビジネスソリューション事業やウェブ制作の一部等を委託しております。役員の兼任2名

- (注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2. 有価証券報告書を提出している会社はありません。
3. 持分は、100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているため子会社としております。
4. 「議決権の所有(又は被所有)割合」欄の[]内は、同意している者の所有割合で外数となっております。
5. 「議決権の所有(又は被所有)割合」欄の()内は連結子会社の所有割合であります。
6. 特定子会社であります。
7. 上記の他に連結子会社及び持分法非適用関連会社が2社ありますが、重要性が乏しいため記載しておりません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ビジネスソリューション事業	126
コミュニケーションデザイン事業	178
全社(共通)	33
合計	337

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む)であり、臨時従業員の総数は従業員数の100分の10未満であるため、記載していません。
2. 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成29年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
199	32.9	4.7	5,101

セグメントの名称	従業員数(名)
ビジネスソリューション事業	85
コミュニケーションデザイン事業	99
全社(共通)	15
合計	199

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む)であり、臨時従業員の総数は従業員数の100分の10未満であるため、記載していません。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

当社においては、労働組合は結成されていません。当社の連結子会社である欧楽科技(大連)有限公司とORO Vietnam Co., Ltd.においては、労働組合が結成されており、前者の加入者が29名、後者の加入者が11名です。その他の連結子会社においては、労働組合は結成されていません。なお、当社、連結子会社ともに、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度（平成29年1月1日～平成29年12月31日）における我が国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復基調が続いています。一方、世界経済においては、緩やかに回復しているものの米国や欧州の政治動向や金融資本市場の変動の影響、東アジア等の地政学的リスクなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

情報サービス業界においては、従来から継続して生産性の改善及び業務の効率化に対するシステムの需要が高まっております。加えて、人工知能（AI）やIoT（Internet of Things）等に代表される技術革新の波も勢いを増し、企業の競争力強化に向けたIT投資需要は増加傾向にあります。その中でも企業としてのニーズは、コストパフォーマンスと利便性の高いソリューション型情報システムにあり、特にクラウド化の進展が顕著となっております。インターネット業界においても多機能端末の普及に伴いインターネットメディアの利用機会は拡大を続け、様々なサービスが展開され継続的に新たな需要が創出される状況にあるほか、セキュリティ対策への関心の高まりなどが強くなっております。

当社グループは、このような状況の中、製販一体体制を継続し、顧客満足度の向上に努めてまいりました。ビジネスソリューション事業の主力製品であるクラウドERP「ZAC Enterprise」と「Reforma PSA」は、プロジェクト管理を必要としている企業を軸として様々な業界・業種に幅広く求められ、「ZAC Enterprise」は安定的に伸長し、業績に寄与いたしました。また、コミュニケーションデザイン事業においては、ウェブやウェブシステム、オウンドメディアの構築・運用・分析など、顧客のマーケティングを支援する様々なソリューションを提供してまいりました。

このような経営環境のもと、当連結会計年度の当社グループの連結業績は、売上高3,910,462千円（前年同期比15.8%増加）、営業利益858,503千円（同25.9%増加）、経常利益840,634千円（同19.1%増加）、親会社株主に帰属する当期純利益は574,371千円（同24.6%増加）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

ビジネスソリューション事業

ビジネスソリューション事業から得られる収入は、下表のとおりに大別されます。

売上種別	サービス内容
ライセンス	「ZAC Enterprise」のライセンス買取またはSaaS形式での月額利用料。「Reforma PSA」のSaaS形式での月額利用料。 「ZAC Enterprise」のライセンスについては買取による販売が中心となっております。「Reforma PSA」のライセンスにおいてはSaaS形式の販売のみとなります。
導入支援・カスタマイズ	「ZAC Enterprise」の導入にかかる支援業務、顧客のニーズに合わせたカスタマイズ開発業務。
保守	「ZAC Enterprise」の保守料金。ライセンスの数に応じた月額課金となっております。

主力のクラウドERP「ZAC Enterprise」における新規顧客の獲得が好調であったことから、売上高・営業利益ともに順調に推移いたしました。この結果、売上高は1,889,810千円（前年同期比18.6%増）、営業利益は684,963千円（同31.3%増）となりました。

コミュニケーションデザイン事業

コミュニケーションデザイン事業は、特に第4四半期における既存顧客との取引拡大により売上高は順調に推移し、2,020,651千円（前年同期比13.4%増）となりました。また、売上高の拡大に伴い営業利益についても好調に推移し、173,539千円（同8.1%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）の残高は3,899,685千円となり、前連結会計年度末と比べ2,628,990千円の増加（前年同期比206.9%増加）となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は876,332千円（前連結会計年度は104,008千円の獲得）となりました。これは主に、法人税等の支払による減少199,253千円等があったものの、税金等調整前当期純利益836,779千円及び売上債権の減少197,526千円等が生じたことによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は431,585千円（前連結会計年度は34,976千円の使用）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出372,234千円が生じたことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は2,178,058千円（前連結会計年度は - 千円）となりました。これは、株式の発行による収入によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
ビジネスソリューション事業	720,780	114.5
コミュニケーションデザイン事業	1,282,857	119.2
合計	2,003,637	117.5

- (注) 1. 金額は、製造原価によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
ビジネスソリューション事業	1,920,379	128.0	213,076	116.7
コミュニケーションデザイン事業	2,088,322	111.7	288,991	130.6
合計	4,008,701	119.0	502,067	124.3

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
ビジネスソリューション事業	1,889,810	118.6
コミュニケーションデザイン事業	2,020,651	113.4
合計	3,910,462	115.8

- (注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
イオンリテール株式会社	563,039	16.7	574,818	14.7

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループにおける経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりであります。

なお、文中における将来に関する事項については、当連結会計年度末現在において判断したものといたします。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは創業以来「社員全員が世界に誇れる物（組織・製品・サービス）を創造し、より多くの人々（同僚・家族・取引先・株主・社会）に対してより多くの「幸せ・喜び」を提供する企業となる。そのための努力を通じて社員全員の自己実現を達成する。」を経営理念としています。その実現のために「Technology×Creative」をスローガンに、最新の技術分野に挑戦し続け、テクノロジー・オリエンテッド・カンパニー（技術志向の企業）として世界を舞台に活躍する世界企業を目指してまいります。また、企業の経営効率化を支援する「ビジネスソリューション事業」、デジタルを基軸に企業のマーケティングを支援する「コミュニケーションデザイン事業」の2つの事業を通じて、顧客企業の発展を支え続けていくことで企業価値の向上を目指してまいります。

(2) 目標とする経営指標

企業価値を継続的に拡大することが重要であると考え、売上高及び営業利益を重要な経営指標としております。高収益事業の開発及びビジネスモデルの確立により、これらの指標の向上を図ってまいります。

(3) 経営環境及び対処すべき課題

当社グループの展開するビジネスソリューション事業及びコミュニケーションデザイン事業は、ともに技術の進化、顧客嗜好の変化、競合他社の競争が激しい事業領域であります。そのような事業環境の中で、当社グループが長期的に持続可能な成長を見込み、経営戦略を確実に遂行していくために対処すべき課題は以下のとおりです。

優秀な人材の確保、育成

継続的な成長の原資である人材は、当社グループにとって、最も重要な経営資源と認識しております。当社グループが属する情報サービス産業では、人材の獲得競争が激化しており、このような状況の中、優秀な人材を継続的に雇用し、定着させることが当社グループの発展において重要であります。人的基盤を強化するために、採用体制の強化、教育・育成、研修制度及び人事評価制度の充実等各種施策を進めてまいります。

営業力の強化

ビジネスソリューション事業において、成長産業へのシェアを増加させるべく、営業・マーケティング活動の幅を広げ、また大手システムインテグレータ企業との連携を強化し、案件の受注増加を目指してまいります。

コミュニケーションデザイン事業においては、業界での認知度の向上を目指し、マーケティング戦略を強化、リード獲得数の向上を図ってまいります。また、引き続き大手広告代理店との連携を強化し、案件の受注増加を目指してまいります。

技術力、製品力の向上

ビジネスソリューション事業において、当社グループの製品「ZAC Enterprise」の特徴であるクラウドサービスの強みを活かすために、技術的な領域における研究を今まで以上に進めてまいります。「ZAC Enterprise」の基本機能をAPI（注1）化し、他社のクラウド製品やBI（注2）製品、各種IoT（注3）機器等と積極的な連携や、UI（ユーザーインターフェース）の改善、スマートフォン端末への対応等の重点施策推進の他、RPA（注4）を取り入れた新機能の開発に着手し、研究開発体制の強化に努めてまいります。

競争が激化しつつあるコミュニケーションデザイン事業においては、事業機会を確実に成長につなげるために、技術面、サービス面において一層の差別化が要求されます。当社グループは、技術の最新動向をキャッチアップするとともに効果的に事業に反映することで技術的優位性の強化を実現してまいります。

事業の海外展開

ビジネスソリューション事業において、ERP市場では主要企業がグローバルに活動を行っており、当社グループが更なる成長を遂げるためには、グローバルでの事業運営は必要不可欠であります。製品の多言語、多通貨対応は必須の要件であり、そのような機能追加の開発投資を行ってまいります。

コミュニケーションデザイン事業においては、顧客は一層海外展開を強く推進する傾向にあり、顧客をグローバルにサポートできる体制は必要な要件であると考えております。同時に、海外市場を開拓することによって、大きな成長機会が期待されます。

当社グループは、こうした機会を確実に取り込むべく、海外連結子会社の体制の強化、グローバルパートナーの開拓等を通じて、リスクを低減しながらも海外への展開を積極的に進めてまいります。

認知度の向上、ブランドの確立

当社グループが市場での浸透度を高めていくためには、一層の認知度の向上、信頼感の醸成が必要となってまいります。顧客に「市場のリーダー」として信頼していただけるよう、製品・サービスのたゆまぬレベルアップ、既存顧客の満足度の向上、パブリシティ強化を通じ当社グループブランドの確立及び普及に努めてまいります。

- (注) 1 . API : Application Programming Interfaceは、あるコンピュータプログラム(ソフトウェア)の機能や管理するデータ等を、外部の他のプログラムから呼び出して利用するための手順やデータ形式等を定めた規約、関数等の集合のことを指します。
- 2 . BI : Business Intelligenceは、業務システム等から蓄積される企業内の豊富なデータを、集約・分析・加工して、企業の意思決定に活用しようとする手法のことを指します。
- 3 . IoT : Internet of Thingsは、コンピュータ等の情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットへの接続や相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測等を行うことを指します。
- 4 . RPA : Robotic Process Automationは、認知技術(ルールエンジン・機会学習・人工知能等)を活用した、主にホワイトカラー業務の効率化・自動化を指します。

4 【事業等のリスク】

当社グループの事業においてリスクの要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、不確実性を内包しているため、実際の結果とは異なる可能性があります。

(1) 事業環境について

競合について

当社グループのビジネスソリューション事業及びコミュニケーションデザイン事業の分野においては既に数多くの競合企業が存在しております。また、当該事業分野が成長市場であること及び大きな参入障壁がないことから、今後、他社の新規参入により競合が激化する可能性があります。

当社グループでは、引き続き顧客のニーズを汲んだ製品・サービスの提供を進める方針であります。競合企業の営業方針、価格設定及び提供する製品・サービス等は、当社グループが属する市場に影響を与える可能性があります。これらの競合企業に対して効果的な差別化を行うことができず、当社グループが想定している事業展開が図れない場合、当社グループの事業及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

特定の取引先への依存について

当社グループのコミュニケーションデザイン事業においては、イオングループ向け売上高（当期におけるイオンリテール(株)に対する売上高574,818千円、総売上高に対する割合14.7%、イオンドットコム(株)に対する売上高140,898千円、総売上高に対する割合3.6%等）の割合が高い水準にあります。

当社グループは、イオングループ各社とそれぞれ個別の業務契約を締結しており、個々の取引は独立したものとなっております。今後イオングループの業績、方針転換等によってこれらの業務契約が解消となった場合、当社グループの事業及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

特定の製品への依存について

当社グループのビジネスソリューション事業は特定の製品「ZAC Enterprise」に依存した事業となっております。今後も取引の拡大に努めると同時に販売依存度を下げるとともに、新規の製品開発を図ってまいります。競合会社の新規参入や既存の会社との競合激化等が、当社グループの事業及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 事業内容について

製品開発・販売を核にした事業モデルについて

当社グループの事業のうち、ビジネスソリューション事業はソフトウェアの自社開発・販売とともに導入にかかるコンサルティングやカスタマイズ等を通じて、最適なソリューションをワンストップで提供できる点を売りにしているものの、その核となるのは自社製品の開発・販売になります。従いまして、競争環境、顧客ニーズの変化等に対応できず、当社製品が市場競争力を喪失した場合、コンサルティングやカスタマイズ等他のサービスの競争力も同様に失われ、当社グループの事業及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

プログラム等のバグ(不良箇所)について

当社グループが提供する製品に誤作動・バグ等が生じた場合、当社グループによる導入サポートや導入後の技術サポート等において当社グループに責任のある原因で支障が生じた場合、または当社グループの製品が機能不足と認識された場合、損害賠償責任の発生や顧客の当社グループに対する信頼喪失により、当社グループの事業及び経営成績に影響を与える可能性があります。

知的財産権について

当社グループは、現時点において第三者より知的財産権に関する侵害訴訟等を提起されたり、そのような通知を受け取っておりません。しかしながら、将来、当社グループの事業活動に関連して第三者が知的財産権の侵害を主張する可能性がないとはいえません。当社グループの属する市場が大きくなり、事業活動が複雑多様化するにつれ、競合も進み、知的財産権をめぐる紛争が発生する可能性があります。

顧客から預かる情報の管理について

当社グループは、事業の性格上、システム導入や企画提案時に、顧客企業の秘密情報、個人情報を取り扱う場合があります。情報の取り扱いに際しては、情報セキュリティの国際規格、国内規格、個人情報保護法に準拠して、情報管理の規程の整備、研修を通じた社員への周知徹底、インフラのセキュリティ強化等により、管理の強化・徹底と漏洩防止に努めてまいります。

しかしながら、情報の授受、運搬時における紛失や盗難等により、顧客企業の秘密情報、個人情報が漏洩した場合には、当該顧客からの損害賠償請求による費用発生や、顧客の当社グループに対する信頼喪失により、当社グループの事業及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(3) 組織体制について

人材の確保や育成について

当社グループにおいて優秀な社内の人材の確保、育成及び定着は最重要課題であり、将来に向けた積極的な採用活動、人事評価制度の整備や研修の実施等の施策を通じ、社内リーダー層への幹部教育、新入社員及び中途入社社員の育成、定着に取り組んでおります。

しかしながら、これらの施策が効果的である保証はなく、また、必要な人材を確保できない可能性があります。また、必ずしも採用し育成した役職員が、当社グループの事業に寄与し続けるとは限りません。このような場合には、当社グループの事業及び経営成績に影響を与える可能性があります。

海外子会社について

当社グループは、海外子会社において当社製品「ZAC Enterprise」の一部を開発しており、海外子会社所在国の政治・経済・社会情勢の変動に起因して生じる予期せぬ事態、各種法令・規則の変更により当地における事業の継続が困難となる等のカントリーリスクを有しております。カントリーリスクについては顧問契約を締結している現地の会計事務所や法律事務所と情報を共有し適切に対応することでリスクヘッジを行っております。

しかしながら、このようなリスクが顕在した場合、当社グループの事業及び経営成績に影響を与える可能性があります。

特定の役員への依存について

当社は、代表取締役社長川田篤に、当社の経営の重要な部分を依存しております。現在、当社では同氏に過度に依存しないよう、経営体制の整備、人材の育成を行う等リスクの軽減に努めておりますが、何らかの理由により同氏による当社業務の遂行が困難となった場合、当社グループの事業及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(4) その他

自然災害について

顧客の情報資産が格納されるサーバーは、国内複数箇所及び海外に分散管理することでリスクを分散させておりますが、データセンターやその周辺ネットワーク設備等に被害を及ぼす災害、事故等が発生し情報資産の消失又はサービスの提供が維持できない状態に至った場合、当社グループの事業及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(5)重要な訴訟事件等について

当社は、ソフトウェア開発等に関して、相手方に対して、その代金の支払等を求める損害賠償請求訴訟を平成28年8月に東京地方裁判所に提起いたしました。相手方は、委託業務の履行がなされていないことを理由に契約の解除を行ったものでありますが、当社は委託業務を履行しており、当該解除は不当なものと考えているため、訴訟において当社の考えを主張しております。なお、当社は業務過誤賠償責任保険に加入しており、訴訟の経過にかかわらず経営成績に対する影響は限定されております。しかしながら、当該訴訟によって当社のレピュテーションに影響が及ぶ可能性があります。

当社は、元従業員より、労働契約に基づく地位確認請求、未払賃金及び賞与の支払請求(11,595千円)と、労働契約上の安全配慮違反に基づく損害賠償請求を受けており、現在協議中であります。今後の推移によっては当社の経営成績に影響を及ぼす可能性があります。現時点ではその影響額を合理的に見積もる事は困難であります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループでは、ビジネスソリューション事業において、ZAC Enterpriseの製品力強化を目的に機能開発を進めております。

研究開発の内容としては、マルチデバイスに対応したUI技術の開発や多言語・多通貨対応技術の開発、基幹システムに蓄積されたビックデータを解析・学習する人工知能開発等の分野で研究開発を行っております。

上記の結果、当連結会計年度における当社グループが支出した研究開発費の総額は39,567千円であり、ビジネスソリューション事業において発生したものであります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。連結財務諸表の作成にあたっては、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告数値に影響を与える見積りを必要とします。経営者は、過去の実績等を勘案して合理的な見積りを行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の連結業績は、売上高3,910,462千円、営業利益858,503千円、経常利益840,634千円、親会社株主に帰属する当期純利益は574,371千円となりました。主な要因は、ビジネスソリューション事業において、主力のクラウドERP「ZAC Enterprise」における新規顧客の獲得が好調であったことや、コミュニケーション事業において、特に第4四半期における既存顧客との取引が拡大したことから、両事業ともに受注が伸長したことによります。なお、詳細な事業別の分析は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載のとおりであります。

(3) 当連結会計年度の財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,816,369千円増加し、5,376,981千円（前年同期比110.0%増）となりました。主な要因は、現金及び預金が3,001,890千円増加したことによります。

(負債)

当連結会計年度末における負債は、前連結会計年度末に比べ43,335千円増加し、669,443千円（同6.9%増）となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が12,247千円、未払法人税等が25,362千円増加したことによります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は、前連結会計年度末に比べ2,773,034千円増加し、4,707,538千円（同143.3%増）となりました。主な要因は、増資により資本金及び資本準備金がそれぞれ1,095,030千円増加したこと、並びに親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が574,371千円増加したことによります。

(4) 経営戦略の現状と見通し

当社グループは、「Technology×Creative」をスローガンにクラウドサービスにより提供されるERPパッケージ「ZAC Enterprise」を中心とした「ビジネスソリューション事業」とウェブやウェブシステム、オウンドメディアの構築・運用・分析など、顧客のマーケティング活動全般を支援する「コミュニケーションデザイン事業」により事業を拡大して参りました。

今後も情報サービス業界において、コストパフォーマンスが良く使いやすい情報システムに対する企業のニーズは一層高まり、クラウド化はさらに進展すると考えております。インターネット業界においては、多機能端末の普及に伴い、インターネットメディアの利用機会は様々なサービスの展開とともに拡大を続けております。また、海外インバウンド需要は引き続き伸長し、中国、東南アジアの消費者への認知拡大・ブランディングの需要が高まると考えております。

そのような事業環境の中で、当社グループは積極的な最新技術の導入とサービスの高機能化、世界市場で見た生産性の最適化と販売市場の拡大に取り組むことで、当社グループが提供するサービスのシェアを高め、より強固なポジションを確保することを目指して参ります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの分析については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(6) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するよう努めております。経営者の問題意識と今後の方針については、「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資の総額は56,548千円であります。セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

(1) ビジネスソリューション事業

当連結会計年度の主な設備投資は、事業用サーバー等機器を中心とする総額29,917千円の投資を実施しました。
なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(2) コミュニケーションデザイン事業

当連結会計年度の主な設備投資は、自社利用ソフトウェア開発を中心とする総額26,630千円の投資を実施しました。
なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成29年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
			建物	工具、器具 及び備品	その他	合計	
本社 (東京都 目黒区)	ビジネスソリュー ション事業 コミュニケーション ンデザイン事業	業務施設	24,171	3,059	50,495	77,726	167
西日本支社 (大阪市 中央区)	ビジネスソリュー ション事業 コミュニケーション ンデザイン事業	業務施設	4,204	748	-	4,952	17
北海道支社 (札幌市 中央区)	コミュニケーション ンデザイン事業	業務施設	3,711	1,092	-	4,803	14
データセンター 計3箇所	ビジネスソリュー ション事業	データセン ター (外部)	-	40,309	-	40,309	-

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3. 帳簿価額のうち「その他」は、主にソフトウェア(ソフトウェア仮勘定含む)であります。
4. 上記の他、連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料 (千円)
本社 (東京都目黒区)	ビジネスソリュー ション事業 コミュニケーション ンデザイン事業	本社事務所	77,594
西日本支社 (大阪市中央区)	ビジネスソリュー ション事業 コミュニケーション ンデザイン事業	支社事務所	9,529
北海道支社 (札幌市中央区)	コミュニケーション ンデザイン事業	支社事務所	6,972

(2) 国内子会社

平成29年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
				建物	工具、器具 及び備品	その他	合計	
株式会社 オロ宮崎	本社 (宮崎県 宮崎市)	ビジネスソリュー ション事業 コミュニケーション ンデザイン事業	業務施設	3,309	368	-	3,677	69

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3. 帳簿価額のうち「その他」は、ソフトウェアであります。
4. 上記の他、連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	年間賃借料 (千円)
株式会社オロ宮崎	本 社 (宮崎県 宮崎市)	ビジネスソリュー ション事業 コミュニケーション ンデザイン事業	子会社事務所	16,245

(3) 在外子会社

平成29年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
				建物	工具、器具 及び備品	その他	合計	
欧楽科技 (大連)有限 公司	本社 (中華人民共 和国遼寧省 大連市)	ビジネスソリ ューション事 業 コミュニケー ション事 業 ンデザイン事 業	業務施設	7,241	3,642	1,264	12,148	35
ORO (Thailand) Co., Ltd.	本社 (タイ バンコク市)	コミュニケー ション事 業 ンデザイン事 業	業務施設	5,985	2,174	949	9,109	12

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3. 帳簿価額のうち「その他」は、主にソフトウェア(ソフトウェア仮勘定含む)であります。
4. 上記の他、連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	年間賃借料 (千円)
欧楽科技(大連)有 限公司	本 社 (中華人民共和國 遼寧省大連市)	ビジネスソリ ューション事 業 コミュニケー ション事 業 ンデザイン事 業	子会社事務所	9,250
ORO Vietnam Co., Ltd.	本社 (ベトナム ホーチミン市)	ビジネスソリ ューション事 業 コミュニケー ション事 業 ンデザイン事 業	子会社事務所	3,131

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出 会社	本社 (東京都 目黒区)	ビジネスソ リューション 事業	サーバ ーの増強	40,000	-	増資資金	平成30年 1月	平成30年 12月	(注) 2
		ビジネスソ リューション 事業	サーバ ーの増強	40,000	-	増資資金	平成31年 1月	平成31年 12月	(注) 2

- (注) 1. 上記の金額には消費税等を含めておりません。
2. 完成後の増加能力につきましては、計数的把握が困難であるため記載を省略しております。

(2) 重要な設備の除却等

該当する計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年3月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,300,000	8,300,000	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
計	8,300,000	8,300,000		

(注) 平成30年3月26日付で、当社株式は東京証券取引所マザーズから同証券取引所市場第一部へ市場変更をおこなっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年12月31日 (注1)	2,999,400	3,000,000		90,000		
平成29年3月23日 (注2)	1,000,000	4,000,000	952,200	1,042,200	952,200	952,200
平成29年4月24日 (注3)	150,000	4,150,000	142,830	1,185,030	142,830	1,095,030
平成29年8月1日 (注4)	4,150,000	8,300,000		1,185,030		1,095,030

(注) 1. 株式分割(1:5,000)による増加であります。

2. 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 2,070円

引受価額 1,904.40円

資本組入額 952.20円

3. 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

割当価格 1,904.40円

資本組入額 952.20円

割当先 野村證券株式会社

4. 株式分割(1:2)による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成29年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	8	23	14	19	1	1,799	1,864	-
所有株式数(単元)	-	9,503	2,680	241	2,533	1	68,036	82,994	600
所有株式数の割合(%)	-	11.45	3.23	0.29	3.05	0.00	81.98	100	-

(7) 【大株主の状況】

平成29年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
川田 篤	東京都江東区	3,492,000	42.07
日野 靖久	東京都目黒区	1,876,000	22.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	349,000	4.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	313,200	3.77
藤崎 邦生	東京都目黒区	200,000	2.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	112,300	1.35
信太 孝一	東京都品川区	96,000	1.16
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	80,700	0.97
BBH/SUMITOMO MITSUI TRUST(UK) LIMITED FOR SMT TRUSTEES(IRELAND) LIMITED FOR JAPAN SMALL CAP FUND CLT AC (常任代理人 株式会社三井住友銀行)	BLOCK5, HARCOURT CENTRE HARCOURT ROAD, DUBLIN 2 (東京都千代田区丸の内1丁目3番2号)	70,400	0.85
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託B口)	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	67,000	0.81
計	-	6,656,600	80.20

(注) 平成29年10月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書に関する平成29年11月8日付の変更報告書において、アセットマネジメントOne株式会社が平成29年10月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、その変更報告書の内容は次のとおりです。

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	603,700	7.27

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,299,400	82,994	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 600		
発行済株式総数	8,300,000		
総株主の議決権		82,994	

【自己株式等】

該当事項はありません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社では、企業価値を継続的に拡大し株主の皆様へ利益還元を行うことを重視しています。株主の皆様への安定的な利益還元と会社の持続的な成長を実現するため、配当金については、1株当たり15円00銭を基準とし、業績、財政状態及び将来の事業展開等を総合的に勘案し適宜見直しを行っていく方針といたします。

当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めておりますが、剰余金の配当は年1回の期末配当で行うこととしております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

第20期事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成30年3月28日 定時株主総会	124,500	15.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期
決算年月	平成26年3月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月
最高(円)					2,413 2,239
最低(円)					1,317 1,327

- (注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおける株価を記載しております。
2. 当社株式は、平成29年3月24日から東京証券取引所マザーズに上場しております。それ以前については、該当事項はありません。
3. 印は、株式分割(平成29年8月1日、1株 2株)による権利落後の株価であります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	1,650 1,599	1,720	1,700	1,949	1,905	2,239
最低(円)	1,534 1,534	1,327	1,400	1,639	1,643	1,785

- (注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおける株価を記載しております。
2. 印は、株式分割(平成29年8月1日、1株 2株)による権利落後の株価であります。

5 【役員の状況】

男性 9名 女性 0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長		川田 篤	昭和48年9月8日	平成11年1月 有限会社オロ(現:当社)設立 同社 代表取締役社長(現) 平成22年1月 欧楽科技(大連)有限公司 董事長 平成24年12月 ORO Vietnam Co., Ltd. 会長 平成25年5月 ORO Technology Singapore Pte. Ltd. Managing Director(現) 平成25年12月 ORO Malaysia Sdn. Bhd. Director(現) 平成26年7月 ORO (Thailand) Co., Ltd. 取締役 平成28年1月 台湾奥楽股分有限公司 董事 平成28年5月 大連奥楽广告有限公司 董事長 平成30年2月 欧楽科技(大連)有限公司 董事(現) 平成30年2月 大連奥楽广告有限公司 董事(現) 平成30年2月 台湾奥楽股分有限公司 董事(現)	(注)3	3,276,000
専務取締役	管理本部長	日野 靖久	昭和48年5月14日	平成11年1月 有限会社オロ(現:当社)設立 同社 取締役 平成21年4月 当社 管理本部長 平成21年6月 当社 専務取締役(現) 平成22年1月 欧楽科技(大連)有限公司 董事 平成25年1月 ORO Vietnam Co., Ltd. General Director 平成25年5月 ORO Technology Singapore Pte. Ltd. Director 平成25年12月 ORO Malaysia Sdn. Bhd. Director 平成27年1月 当社 管理本部長(現)	(注)3	1,768,000
常務取締役	ビジネスソリューション事業本部長	藤崎 邦生	昭和48年2月10日	平成11年7月 有限会社オロ(現:当社)入社 平成12年9月 当社 取締役 平成21年4月 当社 ビジネスソリューション事業本部長(現) 平成22年1月 欧楽科技(大連)有限公司 董事(現) 平成28年12月 株式会社オロ宮崎 取締役(現) 平成30年3月 当社 常務取締役(現)	(注)3	200,000
取締役	コミュニケーションデザイン事業本部長	生本 博士	昭和51年10月26日	平成11年7月 有限会社フォーク(現:株式会社フォーク)入社 平成18年5月 同社 代表取締役社長 平成24年7月 同社 取締役 平成25年1月 当社 入社 当社 執行役員コミュニケーションデザイン事業副本部長 平成28年1月 当社 執行役員コミュニケーションデザイン事業本部長(現) 平成28年12月 株式会社オロ宮崎 取締役(現) 平成30年2月 欧楽科技(大連)有限公司 董事(現) 平成30年2月 大連奥楽广告有限公司 董事(現) 平成30年3月 当社 取締役(現)	(注)3	1,053

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役		上 岳史	昭和46年 9月22日	平成 6年11月 平成 9年10月 平成13年 1月 平成24年 4月 平成25年 5月 平成25年 6月 平成26年 3月 平成26年 7月 平成28年 3月	株式会社プラスアルファ設立 同社 取締役副社長 株式会社アルファインターナショナル (現:アルファグループ株式会社) 取締役 同社 代表取締役社長 同社 代表取締役最高経営責任者 同社 取締役会長 ゲンダイエージェンシー株式会社 社外取締役 (現) 株式会社ウエ・コンサルタンツ 代表取締役社長 (現) アルファディスカール株式会社(現:ハッ ピーテラス株式会社) 設立 同社 代表取締役社長 (現) 当社 社外取締役 (現)	(注) 3	
取締役		阪口 啓	昭和48年11月27日	平成20年 4月 平成24年 4月 平成27年 4月 平成27年 8月 平成29年 4月 平成30年 3月	東京工業大学 大学院理工学研究科 准教授 大阪大学 大学院工学研究科 准教授 東京工業大学 大学院理工学研究科 准教授 フラウンホーファー・ハインリッヒ・ヘ ルツ通信技術研究所 研究主幹 東京工業大学 工学院教授 (現) 当社 社外取締役 (現)	(注) 3	
常勤 監査役		鈴木 誠一	昭和22年10月 6日	昭和45年 4月 平成14年 6月 平成21年10月 平成27年 3月 平成27年 3月 平成28年 1月 平成28年 5月 平成28年 9月	横浜ゴム株式会社 入社 横浜ゴム株式会社 常勤監査役 当社 常勤監査役 (現) 欧楽科技(大連)有限公司 監事 (現) ORO Vietnam Co., Ltd. Controller (現) 台湾興樂股分有限公司 監査人 (現) 大連興樂広告有限公司 監事 (現) 株式会社オロ宮崎 監査役 (現)	(注) 4	300
監査役		廣岡 穰	昭和46年 7月 8日	平成 9年10月 平成13年 5月 平成21年 1月 平成21年 1月 平成21年 6月 平成21年 7月 平成22年 1月 平成23年 5月 平成25年 3月 平成27年 1月 平成27年 5月 平成28年 2月 平成28年 6月 平成29年 5月	中央監査法人 入所 公認会計士登録 廣岡公認会計士事務所 開設 同所 所長 (現) 株式会社アイ・オー・エス 社外監査役 (現) 当社 社外監査役 (現) コスモライフ株式会社 社外監査役 欧楽科技(大連)有限公司 監事 株式会社オフィスワン・ツー 社外監査役 (現) 株式会社アグリメディア 社外監査役 (現) 株式会社廣岡事務所設立 同社 代表取締役社長 (現) 株式会社デイドリーム 監査役 (現) CONNEX SYSTEMS 株式会社 社外監査役 (現) 株式会社フードコネクション 社外監査役 (現) 株式会社Veritas In Silico 社外監査役 (現)	(注) 4	300

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役		大 毅	昭和51年 5月27日	平成12年10月	弁護士登録	(注) 4	200
				平成17年10月	大毅法律事務所 (現:大総合法律事務所) 開設 同所 代表 (現)		
				平成24年 7月	株式会社スリー・ディー・マトリックス 社外監査役 (現)		
				平成27年10月	JITSUBO株式会社 社外監査役 (現)		
				平成28年 3月	当社 社外監査役 (現)		
				平成29年 3月	株式会社スコヒアファーマ 社外監査役 (現)		
平成29年 6月	株式会社リログループ 社外監査役 (現)						
計							5,245,853

- (注) 1. 取締役上岳史、坂口啓は、社外取締役であります。
2. 監査役鈴木誠一、廣岡穰及び大毅は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、平成30年 3月28日開催の定時株主総会終結の時から選任後 1年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、平成28年11月22日開催の臨時株主総会終結の時から選任後 4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
5. 代表取締役社長川田篤及び専務取締役日野靖久は、平成30年 3月20日に立会外分売により当社株式をそれぞれ216,000株、108,000株の売却を行っております。
6. 新任取締役である生本博士氏の所有株式数は、平成30年 2月28日時点のオロ従業員持株会における本人持分を記載しております。なお、同氏のオロ従業員持株会における本人持分は、オロ従業員持株会の規約に基づき、持分引出等の退会に際しての処理が行われます。
7. 所有株式数には、株式累積投資による取得持株数を含めた実質持ち株数を記載しております。なお、平成30年 1月 1日以降の株式累積投資による取得株式数は、有価証券報告書提出日現在において確認ができないため、平成29年12月31日現在の実質持株数を記載しております。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、企業価値の継続的な向上のため、社会・経済環境の変化に即応した意思決定が出来る組織体制を永続的に運用することであり、その実現に向け、透明性が高く、かつ柔軟性に優れた組織及びシステムを構築し、株主ならび当社サービスの顧客に対する責務を果たしていくとの認識のもと、以下のとおりコーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでおります。

企業統治の体制

a．企業統治の体制の概要

当社は、監査役会設置会社でありコーポレート・ガバナンスの充実のために、株主総会の充実、取締役会や監査役会の一層の機能強化を図るとともに、積極的かつ継続的なディスクロージャー活動・IR活動に取り組んでおります。

取締役会は、取締役6名（うち社外取締役2名）で構成されており、取締役会規程に基づき、監査役出席の下、経営上の重要な意思決定を討議し取締役の業務執行の監督を行っております。当社では、原則月1回の定例取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しており、取締役会においては権限に基づいた意思決定の他、業績の進捗状況等、その他の業務上の報告を行い情報の共有を図っております。

監査役会は、常勤の監査役1名と非常勤の監査役2名で構成されております。監査役会は毎月開催され、各監査役は各事業年度に策定する年間監査計画に従い、取締役会その他重要な会議へ出席する他、業務及び各種書類や証憑の調査を通じ取締役の職務執行を監査しております。

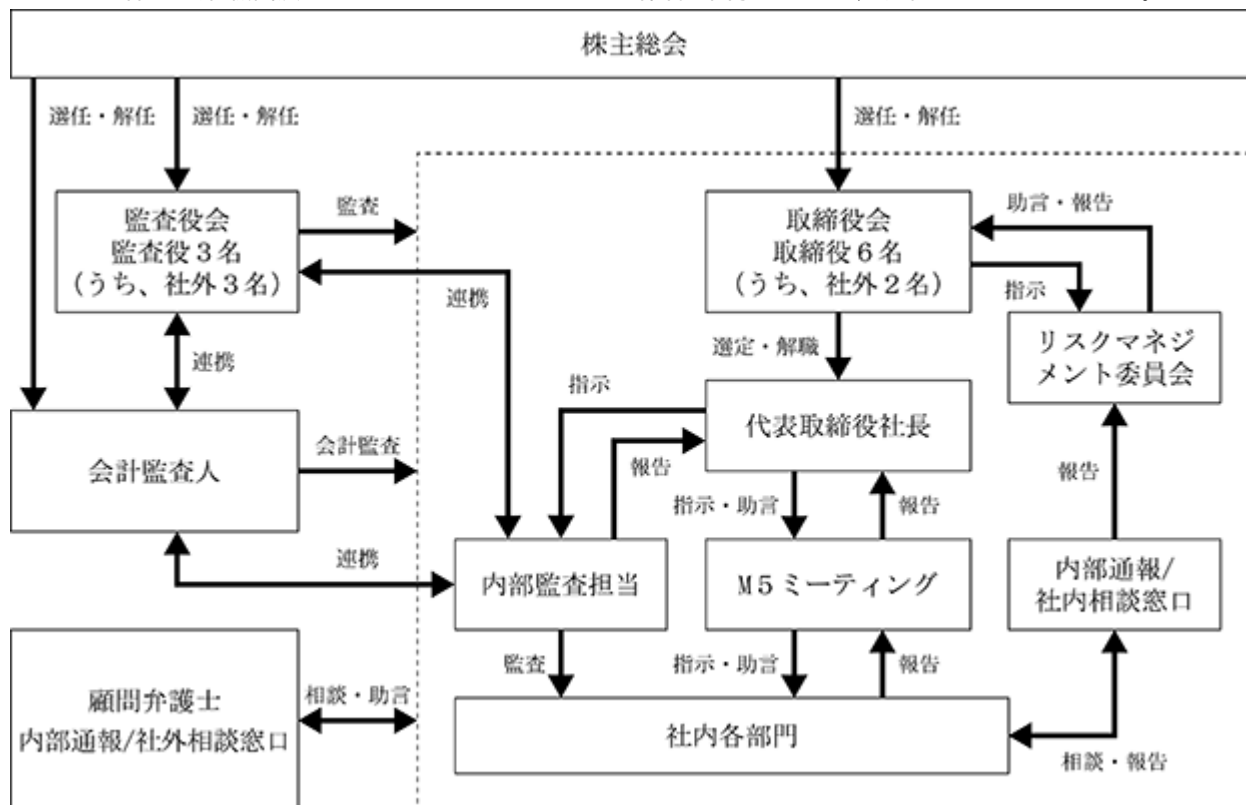
また、監査役は、内部監査担当及び監査法人与情報交換、意見交換を行うことによって、会計監査及び業務監査等について総括的な確認を行い、取締役の業務執行の状況を効率的、合理的に把握し、監督の実効性を高めております。

M5ミーティングは、取締役、常勤監査役及び一定以上の幹部社員で構成され、原則週1回開催し、権限に基づいた意思決定の他、業績の進捗状況等、その他の業務上の報告を行い情報の共有を図っております。

内部監査担当は、内部監査室に室長1名を置き、法令の遵守状況及び業務活動の効率性等について当社各部門及び子会社に対して内部監査を実施し、業務改善に向け具体的に助言・勧告を行っております。

リスクマネジメント委員会は、「リスク管理規程」に基づき、代表取締役社長を委員長として社内横断的に設置され、リスク管理を行うこととしております。また、必要に応じて弁護士、監査法人、社会保険労務士等の外部専門家から助言を受ける体制を構築しております。

当社の会社機関及びコーポレート・ガバナンスの体制を図示しますと、以下のとおりであります。



b. 企業統治の体制を採用する理由

コーポレート・ガバナンスの仕組みは、その時点で会社の目的達成に最適と思われる仕組みを採用することとしています。従って、社会環境・法的环境の変化に伴い適宜見直すこととしています。

当社は、社外監査役を含めた監査役による経営の監視・監督機能を適切に機能させることで経営の健全性と透明性を確保しております。また、取締役会による業務執行の決定と経営の監視・監督機能を向上させるため社外取締役を選任しております。当社は、社外取締役による業務執行者から独立した監視・監督機能及び監査役・監査役会による当該機能の両輪を核としたガバナンス体制が適切であると判断しており、監査役会設置会社を選択することとしています。

c. その他の企業統治に関する次項

(内部統制システムの整備の状況)

当社は、以下のとおり定める内部統制システムの基本方針に従って体制を構築しております。

(a) 経営理念

「社員全員が世界に誇れる物（組織・製品・サービス）を創造し、より多くの人々（同僚・家族・取引先・株主・社会）に対してより多くの「幸せ・喜び」を提供する企業となる。そのための努力を通じて社員全員の自己実現を達成する。」

(b) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- イ．「企業倫理規程」に従い、全役職員に法令、定款、規則及び社会倫理遵守の精神を醸成し、法令、定款、規則及び社会倫理遵守が企業活動の前提であることを徹底する。
- ロ．取締役及び従業員が法令及び定款等を遵守することはもとより、高い倫理観を持って事業活動を行う企業風土を構築するため、「経営理念」に加え、「活動指針」を定める。
- ハ．法令違反行為等に関する通報に対して適切な処理を行うため、「内部通報規程」を定め、これに基づき、法令・定款その他社内規則に対する違反事実やそのおそれがある行為等を早期に発見し是正することを目的とする内部通報体制の運用を行う。
- ニ．取締役会の監督機能の維持・向上のため、社外取締役を選任する。
- ホ．監査役会は、独立した立場から、内部統制システムの整備・運用状況を含め、「監査役監査基準」及び「監査計画」に従い、取締役の職務執行状況を監査する。
- ヘ．内部監査室は、法令、定款及び諸規程等に基づき適切な業務が行われているか監査を行う。
- ト．コンプライアンス意識の徹底・向上を図るための方策として、取締役及び従業員を対象とした、コンプライアンスの基本や業務上必要な情報管理等に関する研修会を実施し、継続的な教育・普及活動を行う。

(c) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- イ．取締役の職務の執行に係る情報については、法令及び「文書管理規程」を含む社内規程に従い、文書（電磁的記録含む）により作成、保管、保存する。また、必要に応じて運用状況の検証、規程等の見直しを行う。
- ロ．取締役及び監査役が、その職務上必要あるときは直ちに上記文書等を閲覧できる保存管理体制とする。

(d) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- イ．リスク管理の基本事項を定めた「リスク管理規程」に従い、リスクの顕在化時には迅速にリスクに対処するとともに、再発防止の対策を立てる。
- ロ．リスク情報等については、各部門責任者により取締役会に対して報告を行う。
- ハ．不測の事態が発生した場合には、代表取締役社長の指揮下に対策本部を設置し、必要に応じて顧問弁護士事務所等の外部専門機関とともに、迅速かつ的確な対応を行い、損失・被害等の拡大を最小限にとどめる体制を整える。

(e) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- イ．「取締役会規程」を遵守し、社外取締役を含む取締役から構成される取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時取締役会を開催する。
- ロ．「取締役会規程」に定められている要付議事項について、事前に十分な資料を準備して、取締役会に付議することを遵守する。
- ハ．経営目標、中長期経営計画に基づく各部門の目標と責任を明確にするとともに、予算と実績の差異分析を通じて所期の業績目標の達成を図る。
- ニ．意思決定の迅速化のため、「組織規程」「職務分掌規程」及び「職務権限規程」等の社内規程を整備し、役割、権限、責任を明確にする。
- ホ．職務権限を越える案件については、主管部門の専門的意見を反映させた上で、代表取締役社長及び担当役員との合議により決裁する稟議制度を構築、運営する。

(f) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- イ．子会社は、「関係会社管理規程」に定める協議承認事項・報告事項については、当社へ報告し、承認を求めるとともに、定期的に業務進捗報告を実施し、経営管理情報・危機管理情報の共有を図りながら、業務執行体制の適正を確保する。
- ロ．子会社担当取締役は、子会社の損失の危険の発生を把握した場合、直ちにその内容、発生する損失の程度及び当社に対する影響等について、当社の取締役会に報告を行う。
- ハ．子会社は、当社の内部監査室による定期的な内部監査の対象とし、監査の結果は当社の代表取締役社長に報告を行う。
- ニ．当社は、必要に応じて、子会社に対し取締役を派遣または監査役が赴き、当該役員を通じて、子会社担当取締役の職務執行を監視・監督する。

(g) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及びその使用人の取締役からの独立性に関する事項並びに指示の実効性確保に関する事項

- イ．監査役が必要とした場合、監査役の職務を補助するための監査役補助使用人を置くものとし、その人選については監査役間で協議する。
- ロ．監査役補助使用人の取締役からの独立性を確保するため、監査役補助使用人は取締役の指揮、命令を受けないものとし、当該期間中の任命、異動、評価、解任等については監査役の同意を得る。
- ハ．監査役の職務を補助すべき使用人は、監査役の要請に基づき補助を行う際は、監査役の指揮命令に従うものとする。

(h) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役会への報告に関する体制

- イ．当社の取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制
 - ・監査役は、取締役会の他、必要に応じて、一切の社内会議に出席する権限を有する。
 - ・監査役の要請に応じて、取締役及び使用人は、事業及び内部統制の状況等の報告を行い、内部監査室は内部監査の結果を報告する。
 - ・取締役及び使用人は、重大な法令・定款違反及び不正行為の事実、または会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を知ったときには、速やかに監査役に報告する。
- ロ．子会社の取締役、監査役、業務を執行する社員及び使用人またはこれらの者から報告を受けた者が当社の監査役に報告するための体制
 - 当社の監査役の要請に応じて業務の執行状況の報告を行うとともに、当社及び子会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事項を発見した時は、直ちに当社の監査役へ報告する。

(i) 前号で報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

- 監査役への報告を行った取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な扱いを行うことを禁止し、「内部通報規程」で定める通報者の保護に基づき、当該報告をした者の保護を行う。

(j) 監査役の職務執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役の職務執行について生ずる費用等の請求の手続きを定め、監査役から前払いまたは償還等の請求があった場合には、当該請求に係る費用が監査役の職務の執行に必要なと明らかに認められる場合を除き、所定の手続きに従い、これに応じる。

(k) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

イ．社外監査役として、企業経営に精通した経験者・有識者や公認会計士等の有資格者を招聘し、代表取締役社長や取締役等、業務を執行する者からの独立性を保持する。

ロ．監査役は、代表取締役社長との定期的な会議を開催し、意見や情報交換を行う。

ハ．監査役は、内部監査室と緊密な連携を保ち、必要に応じて、内部監査室に調査を依頼することができる。

(l) 財務報告の信頼性を確保するための体制整備

当社は、財務報告の信頼性を確保するため、経理規程類を整備するとともに、「財務報告に係る内部統制の整備に関する基本方針」を定め、財務報告において不正や誤謬が発生するリスクを管理し、予防及び牽制機能を整備・運用・評価し、不備があれば是正していく体制を整備する。

(l) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

社会の秩序や企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力に対しては、関係機関との連携を含め会社全体で毅然とした態度で臨むものとし、反社会的勢力とは一切の関係を遮断する。また、警察や関係機関並びに弁護士等の専門機関と連携を図りながら、引き続き反社会的勢力を排除するための体制の整備を推進する。

(リスク管理体制の整備の状況)

当社は、「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、「リスク管理規程」を制定し、情報セキュリティ、環境、製品の品質・安全、市場、労務等様々な事業運営上のリスクについて、早期に把握・共有することでリスクの顕在化を未然に防止する体制の構築に努めております。

具体的には、役員、従業員が法令違反を含む不正行為を認識した場合の内部通報については、通報窓口からリスクマネジメント委員会に報告されます。また、役員、従業員が情報セキュリティに関するインシデントを認識した場合には、インシデント報告があげられ、この報告はリスクマネジメント委員にも報告されます。当該報告も含めリスクが顕在化した場合には、代表取締役社長がリスクマネジメント委員会を招集し、リスクへ対応とリスク防止策を検討します。

また、情報セキュリティマネジメントシステム、個人情報保護マネジメントシステムを整備し、個人情報を含めた情報管理に関するセキュリティ対策を講ずるとともに、役員、従業員を対象とした研修を実施して情報の適正管理に努めております。

さらに、企業価値向上のためにはコンプライアンスの徹底が必要不可欠であると認識しており、「企業倫理規程」を制定し、これに従い全役職員が法令等を遵守した行動、高い倫理観をもった行動をとることを周知徹底しております。

内部監査及び監査役監査の状況

(内部監査)

内部監査室を設置し、専任の担当者1名により内部監査を実施しております。内部監査室は、年間の監査計画に従い、法令の遵守状況及び業務活動の効率性等について内部監査を実施し、監査結果を代表取締役社長に報告しております。また、内部監査室は監査役会及び監査法人と定期的に情報交換を実施しております。

(監査役監査)

定期的に監査役会を開催し、常勤監査役1名(社外監査役)、非常勤監査役2名(社外監査役)により監査役相互で連携することで効果的な監査を実施しております。また、取締役会に出席して、意見を述べ、経営の適法性・効率性について確認する他、年間の監査計画に基づいた監査を実施しております。

社外監査役鈴木誠一氏は、事業会社における長年にわたる豊富な経験と幅広い知識から社外監査役に選任しております。

社外監査役廣岡穰氏は公認会計士の資格を有しており、これまでの企業会計等に関する豊富な知識と幅広い経験から社外監査役に選任しております。

社外監査役大毅氏は、弁護士の資格を有しており、これまでの企業法務に関する豊富な知識と幅広い経験から社外監査役に選任しております。

(内部監査室、監査役及び監査法人との相互連携)

監査役と内部監査室は、毎月連絡会を開催し内部監査室より監査役に対し、内部監査の実施状況を報告し意見交換を行っております。内部監査室、監査役及び監査法人は監査結果や監査計画等について適宜意見交換を行うことで連携を図っております。

会計監査の状況

会計監査は、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を結んでおります。当社グループの会計監査を担当した公認会計士は次のとおりであります。なお、継続監査年数については、全員7年以内のため記載を省略しております。

公認会計士の氏名等

業務執行社員：椎名 弘、芦川 弘

監査業務に係る補助者の構成：公認会計士8名及びその他8名

なお、当事業年度第1四半期まで宮下卓士氏が監査業務を執行し、その後、宮下卓士氏は椎名弘氏に交代しております。

社外取締役及び社外監査役との関係

本書提出日現在、当社は社外取締役を2名、社外監査役を3名それぞれ選任しております。

社外取締役上岳史氏はハッピーテラス株式会社の代表取締役であり、当社は同社との間で、ウェブインテグレーション業務、ウェブマーケティング業務に関する取引をしておりますが、価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して当社が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定しており、当社と同氏及び同社との間に特別な利害関係はありません。また、同氏は、ゲンダイエージェンシー株式会社の社外取締役であります。当社と同社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役阪口啓氏は、東京工業大学工学院の教授であります。当社と同氏及び同大学との間には人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役鈴木誠一氏と当社との間には人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役廣岡穰氏は、公認会計士であり、廣岡公認会計士事務所代表であります。当社と同氏は継続的な顧問契約は締結しておらず、当社と同氏及び同事務所との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役大毅氏は、弁護士であり、大総合法律事務所代表であります。当社と同氏は継続的な顧問契約は締結しておらず、当社と同氏及び同事務所との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。また、同氏は、株式会社スリー・ディー・マトリックス、株式会社リログループの社外監査役であります。当社と同社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役及び社外監査役は、経営者や公認会計士、弁護士としての豊富な経験と高い見識に基づき、当社の経営全般に対する独立した客観的な観点からの助言・提言を行うことで取締役等の職務執行の監督を行っております。

なお、当社は社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)					対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰 労金	その他	
取締役 (社外取締役を除く。)	105,600	105,600	-	-	-	-	4
社外取締役	3,900	3,900	-	-	-	-	1
社外監査役	14,700	14,700	-	-	-	-	3

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

ハ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

役員報酬は、世間水準、業績、社員給与とのバランス等を考慮し株主総会にて決議された報酬限度額の範囲内で、取締役においては、取締役会での協議により決定しております。監査役については、監査役会の協議により決定しております。なお、取締役の報酬限度額は、平成25年6月27日開催の第15期定時株主総会において、年額2億円以内、監査役の報酬限度額は平成25年6月27日開催の第15期定時株主総会において、年額3,000万円以内と決議しております。

また、平成28年3月25日開催の第18期定時株主総会において、海外赴任をする取締役に対して、借上げ社宅を提供するとともに、海外赴任により生ずる子女の教育費の追加費用を金銭に非ざる報酬額としております。この場合に会社が負担する金銭に非ざる報酬の限度額は、対象取締役一人当たり月額50万円以内とすることを決議しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 1銘柄

貸借対照表計上額の合計額 7,933千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
小林製薬(株)	979.382	4,896	取引関係の維持

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
小林製薬(株)	1,083.803	7,933	取引関係の維持

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

定款における取締役の定数や資格制限等

当社の取締役は6名以内とする旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会決議としている事項

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

また、当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、業務執行取締役等でない取締役及び監査役との間において、会社法第423条第1項の規定する損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨定款に定めており、業務執行取締役等でない取締役及び監査役全員と当該契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令で定める額としております。これは、取締役及び監査役が、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	24,302		28,500	3,877
連結子会社				
計	24,302		28,500	3,877

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、公認会計士法第2条第1項以外の業務である株式上場準備に関する助言業務、財務報告に係る内部統制に関する助言業務及びコンフォートレター作成業務についての対価を支払っております

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、事業の規模及び監査日数等を勘案したうえで決定しております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応できる体制を整備するため、専門誌の定期購読等を行うことで情報収集等を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,270,694	4,272,585
受取手形及び売掛金	773,755	569,105
仕掛品	¹ 132,536	¹ 158,700
原材料及び貯蔵品	834	3,395
繰延税金資産	72,438	44,354
その他	63,022	70,195
貸倒引当金	931	815
流動資産合計	2,312,349	5,117,521
固定資産		
有形固定資産		
建物	69,312	78,743
工具、器具及び備品	143,087	162,517
減価償却累計額	122,622	140,177
有形固定資産合計	89,776	101,083
無形固定資産	47,864	52,697
投資その他の資産		
投資有価証券	² 9,432	² 12,763
繰延税金資産	30,091	19,454
その他	72,013	74,387
貸倒引当金	915	926
投資その他の資産合計	110,621	105,679
固定資産合計	248,263	259,460
資産合計	2,560,612	5,376,981

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	108,953	121,200
未払法人税等	111,036	136,399
賞与引当金	38,084	34,096
受注損失引当金	1 42,018	1 38,907
その他	326,015	338,838
流動負債合計	626,108	669,443
負債合計	626,108	669,443
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	1,185,030
資本剰余金	-	1,095,030
利益剰余金	1,829,675	2,404,046
株主資本合計	1,919,675	4,684,106
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,205	2,938
為替換算調整勘定	13,442	20,492
その他の包括利益累計額合計	14,648	23,431
非支配株主持分	180	-
純資産合計	1,934,504	4,707,538
負債純資産合計	2,560,612	5,376,981

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年1月1日 至平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)
売上高	3,375,747	3,910,462
売上原価	1, 2 1,715,359	1, 2 1,967,310
売上総利益	1,660,387	1,943,152
販売費及び一般管理費	3 978,235	3 1,084,648
営業利益	682,152	858,503
営業外収益		
受取利息及び配当金	191	1,620
為替差益	17,337	-
補助金収入	3,945	5,595
消費税差額	-	9,624
その他	2,283	1,159
営業外収益合計	23,758	17,999
営業外費用		
株式交付費	-	12,001
上場関連費用	-	16,224
為替差損	-	7,220
その他	-	422
営業外費用合計	-	35,868
経常利益	705,911	840,634
特別損失		
和解金	-	3,855
固定資産除却損	4 230	-
特別損失合計	230	3,855
税金等調整前当期純利益	705,681	836,779
法人税、住民税及び事業税	251,515	224,612
法人税等調整額	3,543	38,060
法人税等合計	247,971	262,673
当期純利益	457,709	574,106
非支配株主に帰属する当期純損失()	3,333	265
親会社株主に帰属する当期純利益	461,043	574,371

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
当期純利益	457,709	574,106
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	36	1,732
為替換算調整勘定	20,060	7,135
その他の包括利益合計	1 20,023	1 8,867
包括利益	437,685	582,974
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	441,295	583,154
非支配株主に係る包括利益	3,609	180

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本			その他の包括利益累計額			非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	利益剰余金	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	90,000	1,368,632	1,458,632	1,168	33,227	34,396	3,789	1,496,818
当期変動額								
親会社株主に帰属する 当期純利益		461,043	461,043					461,043
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				36	19,785	19,748	3,609	23,357
当期変動額合計	-	461,043	461,043	36	19,785	19,748	3,609	437,685
当期末残高	90,000	1,829,675	1,919,675	1,205	13,442	14,648	180	1,934,504

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本				その他の包括利益累計額			非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	90,000	-	1,829,675	1,919,675	1,205	13,442	14,648	180	1,934,504
当期変動額									
新株の発行	1,095,030	1,095,030		2,190,060					2,190,060
親会社株主に帰属する 当期純利益			574,371	574,371					574,371
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					1,732	7,050	8,783	180	8,602
当期変動額合計	1,095,030	1,095,030	574,371	2,764,431	1,732	7,050	8,783	180	2,773,034
当期末残高	1,185,030	1,095,030	2,404,046	4,684,106	2,938	20,492	23,431	-	4,707,538

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年1月1日 至平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	705,681	836,779
減価償却費	37,482	43,076
貸倒引当金の増減額（は減少）	69	105
賞与引当金の増減額（は減少）	5,099	4,167
受注損失引当金の増減額（は減少）	4,860	3,110
受取利息及び受取配当金	191	1,620
株式交付費	-	12,001
和解金	-	3,855
有形固定資産除却損	230	-
売上債権の増減額（は増加）	319,433	197,526
たな卸資産の増減額（は増加）	8,154	28,711
仕入債務の増減額（は減少）	74,363	10,484
その他	9,127	13,182
小計	490,878	1,079,188
利息及び配当金の受取額	191	252
和解金の支払額	-	3,855
法人税等の支払額	387,061	199,253
営業活動によるキャッシュ・フロー	104,008	876,332
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	372,234
有形固定資産の取得による支出	9,105	42,375
無形固定資産の取得による支出	20,082	14,172
投資有価証券の取得による支出	4,963	644
敷金及び保証金の差入による支出	826	-
その他	-	2,159
投資活動によるキャッシュ・フロー	34,976	431,585
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	-	2,178,058
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	2,178,058
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,582	6,185
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	50,449	2,628,990
現金及び現金同等物の期首残高	1,220,245	1,270,694
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,270,694	1 3,899,685

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 8社

連結子会社の名称

欧楽科技(大連)有限公司

ORO Vietnam Co., Ltd.

ORO Malaysia Sdn. Bhd.

ORO Technology Singapore Pte. Ltd.

ORO (Thailand) Co., Ltd.

台灣奧樂股分有限公司

大連奧樂廣告有限公司

株式会社オロ宮崎

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない関連会社(DO HOUSE Thailand Co., Ltd.)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、12月31日であり、連結決算日と同一となっております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

仕掛品

個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～18年

工具、器具及び備品 3～10年

無形固定資産

商標権

定額法を採用し、10年で償却しております。

市場販売目的のソフトウェア

見込販売可能期間(3年)における見込販売数量に基づく償却額と見込販売可能期間に基づく定額償却額のいずれか大きい額により償却しております。

自社利用目的のソフトウェア

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき将来の支給見込額を計上しております。

受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における受注契約に係る損失見込額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

売上高及び売上原価の計上基準

- a 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約
進行基準(進捗率の見積りは原価比例法)
- b その他の契約
完成基準

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「流動負債」の「未払費用」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「未払費用」122,670千円及び「その他」203,345千円は、「その他」326,015千円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 仕掛品及び受注損失引当金の表示

損失の発生が見込まれる受注契約に係る仕掛品と受注損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

受注損失引当金に対応する仕掛品の額

前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
40,950千円	36,472千円

2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
投資有価証券(株式)	4,536千円	4,830千円

3 偶発債務

当社は、元従業員より、労働契約に基づく地位確認請求、未払賃金及び賞与の支払請求(11,595千円)と、労働契約上の安全配慮違反に基づく損害賠償請求を受けており、現在協議中であります。今後の推移によっては当社の経営成績に影響を及ぼす可能性があります。現時点ではその影響額を合理的に見積もることは困難であります。

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
1,482千円	-千円

2 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
42,018千円	38,907千円

3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
給与	326,780千円	345,407千円
役員報酬	110,995千円	142,671千円
貸倒引当金繰入額	145千円	105千円
賞与引当金繰入額	15,763千円	22,152千円
研究開発費	26,805千円	39,567千円

なお、研究開発費は一般管理費のみであります。

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)
工具、器具及び備品	201千円	- 千円
ソフトウェア	28千円	- 千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)
(千円)		
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	35	2,391
組替調整額	-	-
税効果調整前	35	2,391
税効果額	1	659
その他有価証券評価差額金	36	1,732
為替換算調整勘定		
当期発生額	20,060	7,135
その他の包括利益合計	20,023	8,867

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	600	2,999,400	-	3,000,000

(注) 平成28年12月15日開催の取締役会決議により、平成28年12月31日付で普通株式1株につき5,000株の株式分割を行っております。これにより発行済株式数は2,999,400株増加し、3,000,000株となっております。

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,000,000	5,300,000		8,300,000

(注) 1 新規上場に伴い、平成29年3月23日を払込期日とする公募増資を行っております。これにより発行済株式数は1,000,000株増加しております。

2 平成29年4月24日を払込期日とする第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出)を行っております。これにより発行済株式数は150,000株増加しております。

3 平成29年6月15日開催の取締役会決議により、平成29年8月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。これにより発行済株式数は4,150,000株増加し、8,300,000株となっております。

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年3月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	124,500	15.00	平成29年12月31日	平成30年3月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金	1,270,694千円	4,272,585千円
預入期間が3か月を超える定期 預金	千円	372,900千円
現金及び現金同等物	1,270,694千円	3,899,685千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い預金等で運用を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

外貨預金は、為替の変動リスクに晒されております。

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクにさらされております。投資有価証券は、主に取引上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクにさらされております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権について、管理本部が主要な取引先の状況をモニタリングし、取引相手ごとに残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクにさらされる金融資産の連結貸借対照表価額により表されています。

市場リスクの管理

外貨預金については、定期的な為替相場を把握し、為替変動リスクを管理しております。

投資有価証券については、定期的な時価や発行体の財務状況等の把握を行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、管理本部が適時に資金繰り計画を作成・更新すること等により、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち11.6%が特定の大口取引先に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成28年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,270,694	1,270,694	-
(2) 受取手形及び売掛金	773,755	773,755	-
(3) 投資有価証券	4,896	4,896	-
資産計	2,049,346	2,049,346	-
(1) 支払手形及び買掛金	108,953	108,953	-
(2) 未払法人税等	111,036	111,036	-
負債計	219,990	219,990	-

当連結会計年度(平成29年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	4,272,585	4,272,585	-
(2) 受取手形及び売掛金	569,105	569,105	-
(3) 投資有価証券	7,933	7,933	-
資産計	4,849,624	4,849,624	-
(1) 支払手形及び買掛金	121,200	121,200	-
(2) 未払法人税等	136,399	136,399	-
負債計	257,600	257,600	-

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは全て短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価については、株式は取引所の価格によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 未払法人税等

これらは短期で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額
(単位:千円)

区分	平成28年12月31日	平成29年12月31日
非上場株式	4,536	4,830

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成28年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,270,694	-	-	-
受取手形及び売掛金	773,755	-	-	-
合計	2,044,449	-	-	-

当連結会計年度(平成29年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,272,585			
受取手形及び売掛金	569,105			
合計	4,841,690			

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成28年12月31日)

1. その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 株式	4,896	3,053	1,843
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの	-	-	-
合計	4,896	3,053	1,843

当連結会計年度(平成29年12月31日)

1. その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 株式	7,933	3,698	4,235
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの	-	-	-
合計	7,933	3,698	4,235

(退職給付関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	13,257千円	10,543千円
受注損失引当金	14,626 "	11,848 "
仕掛品	27,901 "	5,056 "
未払事業税	9,653 "	10,653 "
ソフトウェア	29,682 "	20,164 "
繰越欠損金	7,866 "	8,168 "
その他	12,478 "	9,400 "
繰延税金資産小計	115,465 "	75,835 "
評価性引当額	7,866 "	8,168 "
繰延税金資産合計	107,599千円	67,667千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	637 "	1,296 "
特別償却準備金	3,104 "	1,902 "
その他	1,328 "	658 "
繰延税金負債合計	5,069 "	3,857 "
繰延税金資産純額	102,529千円	63,809千円

(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
流動資産 繰延税金資産	72,438千円	44,354千円
固定資産 繰延税金資産	30,091 "	19,454 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度及び当連結会計年度ともに、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、記載を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

平成29年3月の上場の際に行われた公募増資の結果、資本金が増加したことに伴い、外形標準課税が適用されることとなりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、従来の34.81%から、平成30年1月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.86%に、平成31年1月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については30.62%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が5,354千円減少し、法人税等調整額5,523千円、その他有価証券評価差額金168千円がそれぞれ増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社に製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは事業本部を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「ビジネスソリューション事業」及び「コミュニケーションデザイン事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「ビジネスソリューション事業」は、統合基幹業務システム「ZAC Enterprise」及び「Reforma PSA」の開発・販売を中心としたサービスを提供しております。

「コミュニケーションデザイン事業」は、ウェブやウェブシステム、オウンドメディアの構築・運用・分析など、デジタルを基軸として、企業や自治体のマーケティング活動をワンストップで支援しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。全社共通の費用は一定の比率で各セグメントに配賦しております。報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
	ビジネスソリューション事業	コミュニケーションデザイン事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,593,882	1,781,865	3,375,747	-	3,375,747
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,593,882	1,781,865	3,375,747	-	3,375,747
セグメント利益	521,606	160,545	682,152	-	682,152
セグメント資産	592,864	503,959	1,096,823	1,463,789	2,560,612
その他の項目					
減価償却費	25,723	11,758	37,482	-	37,482
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	45,441	2,952	48,394	-	48,394

(注) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、その主なものは、現金及び預金であります。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
	ビジネスソ リューション事 業	コミュニケー ションデザイン 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,889,810	2,020,651	3,910,462	-	3,910,462
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,889,810	2,020,651	3,910,462	-	3,910,462
セグメント利益	684,963	173,539	858,503	-	858,503
セグメント資産	421,794	546,887	968,681	4,408,300	5,376,981
その他の項目					
減価償却費	33,147	9,928	43,076	-	43,076
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	29,917	26,630	56,548	-	56,548

(注) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、その主なものは、現金及び預金であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
77,114	3,949	8,713	89,776

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオンリテール(株)	563,039	コミュニケーションデザイン事業

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
81,151	10,883	9,048	101,083

(表示方法の変更)

中国の有形固定資産合計が連結貸借対照表の有形固定資産の10%以上となったため、当連結会計年度より記載しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の「2. 地域ごとの情報 (2) 有形固定資産」の表示を変更しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオンリテール(株)	574,818	コミュニケーションデザイン事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

(単位:千円)

種類	会社等の名称 または 氏名	所在地	資本金 または 出資金	事業の内容 または 職業	議決権等 の所有(被 所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容 (注1)	取引金額 (注2) (注3)	科目	期末残高 (注3)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	ハッピーテラス株式会社	東京都港区	9,501	障がい者支援事業 介護教育事業	-	システム構築 サーバ運用 役員の兼任	システム構築 サーバ運用	11,271	売掛金	1,902

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して当社が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定しております。
2. ハッピーテラス株式会社の代表取締役上岳史が、平成28年3月25日付で当社の取締役に就任しました。このため取引金額は取締役就任から期末日までの取引について記載しております。
3. 取引金額に消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

(単位:千円)

種類	会社等の名称 または 氏名	所在地	資本金 または 出資金	事業の内容 または 職業	議決権等 の所有(被 所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容 (注1)	取引金額 (注2)	科目	期末残高 (注2)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	ハッピーテラス株式会社	東京都港区	9,501	障がい者支援事業 介護教育事業	-	システム構築 サーバ運用 役員の兼任	システム構築 サーバ運用	15,962	売掛金	3,285

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して当社が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定しております。
2. 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高は消費税等を含めております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
1株当たり純資産額	322.39円	567.17円
1株当たり当期純利益金額	76.84円	73.99円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、平成28年12月31日付で普通株式1株につき5,000株の割合で株式分割を、また、平成29年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額については、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。
3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	461,043	574,371
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	461,043	574,371
普通株式の期中平均株式数(株)	6,000,000	7,763,287

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	934,530	1,857,592	2,790,783	3,910,462
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	185,429	343,784	542,312	836,779
親会社株主に帰属 する四半期(当期) 純利益金額 (千円)	114,282	220,842	350,684	574,371
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	18.43	30.60	46.25	73.99

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	18.43	12.96	15.64	26.95

(注) 当社は、平成29年8月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算出しております。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,002,170	3,901,411
受取手形	-	10,706
売掛金	¹ 747,541	¹ 524,661
仕掛品	141,058	169,607
貯蔵品	820	3,374
前渡金	10,050	51
前払費用	26,814	28,017
関係会社短期貸付金	30,000	34,200
繰延税金資産	72,091	40,642
その他	¹ 14,363	¹ 37,233
貸倒引当金	931	815
流動資産合計	2,043,977	4,749,089
固定資産		
有形固定資産		
建物	48,046	51,249
工具、器具及び備品	115,368	135,796
減価償却累計額	86,300	109,571
有形固定資産合計	77,114	77,474
無形固定資産		
商標権	1,325	1,025
ソフトウェア	19,693	45,574
ソフトウェア仮勘定	26,363	3,885
その他	9	9
無形固定資産合計	47,391	50,495
投資その他の資産		
投資有価証券	4,896	7,933
関係会社株式	44,217	33,559
関係会社出資金	15,747	15,747
破産更生債権等	915	915
長期前払費用	385	545
繰延税金資産	35,803	28,263
その他	50,178	50,929
貸倒引当金	915	926
投資その他の資産合計	151,228	136,969
固定資産合計	275,735	264,938
資産合計	2,319,712	5,014,028

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 152,053	1 166,012
未払金	75,751	61,095
未払法人税等	109,374	105,687
未払費用	95,609	104,363
前受金	11,243	11,738
預り金	37,524	46,652
賞与引当金	37,224	33,504
受注損失引当金	46,786	44,313
その他	53,364	42,186
流動負債合計	618,931	615,555
負債合計	618,931	615,555
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	1,185,030
資本準備金	-	1,095,030
資本剰余金合計	-	1,095,030
利益剰余金		
その他利益剰余金		
特別償却準備金	2 5,536	2 4,310
繰越利益剰余金	1,604,038	2,111,164
利益剰余金合計	1,609,575	2,115,474
株主資本合計	1,699,575	4,395,534
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,205	2,938
評価・換算差額等合計	1,205	2,938
純資産合計	1,700,781	4,398,473
負債純資産合計	2,319,712	5,014,028

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)
売上高	1 3,260,565	1 3,703,571
売上原価	1 1,745,112	1 2,042,852
売上総利益	1,515,452	1,660,718
販売費及び一般管理費	2 846,983	2 886,733
営業利益	668,469	773,984
営業外収益		
受取利息及び配当金	1 986	1 2,355
為替差益	46	610
補助金収入	3,945	-
物品売却収入	-	611
その他	669	432
営業外収益合計	5,648	4,010
営業外費用		
株式交付費	-	12,001
上場関連費用	-	16,224
その他	-	28
営業外費用合計	-	28,253
経常利益	674,117	749,741
特別損失		
関係会社株式評価損	7,033	10,657
和解金	-	3,855
特別損失合計	7,033	14,512
税引前当期純利益	667,084	735,229
法人税、住民税及び事業税	244,000	191,000
法人税等調整額	6,318	38,330
法人税等合計	237,681	229,330
当期純利益	429,402	505,898

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)		当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	67,047	3.7	89,616	4.2
労務費		868,359	48.2	822,449	38.7
経費		249,697	13.9	234,472	11.0
外注費		616,416	34.2	976,452	46.1
当期総製造費用		1,801,521	100.0	2,122,991	100.0
期首仕掛品たな卸高		130,751		141,058	
合計		1,932,273		2,264,049	
期末仕掛品たな卸高		141,058		169,607	
他勘定振替高	2	46,101		51,589	
売上原価		1,745,112		2,042,852	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
地代家賃	72,376	63,918
減価償却費	27,265	33,640
通信費	29,522	29,462
保守管理費	38,794	50,892

2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
研究開発費	26,805	39,567
ソフトウェア仮勘定	19,296	12,021
計	46,101	51,589

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、個別原価計算によっております。なお、労務費及び一部の経費については予定原価を適用し、原価差額については期末において調整計算を行っています。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	利益剰余金		利益剰余金 合計		その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		特別償却 準備金	繰越利益 剰余金					
当期首残高	90,000	5,588	1,206,664	1,212,252	1,302,252	1,168	1,168	1,303,421
当期変動額								
特別償却準備金の取崩		1,300	1,300		-			-
特別償却準備金の積立		1,249	1,249		-			-
当期純利益			429,402	429,402	429,402			429,402
会社分割による減少			32,079	32,079	32,079			32,079
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						36	36	36
当期変動額合計	-	51	397,374	397,323	397,323	36	36	397,360
当期末残高	90,000	5,536	1,604,038	1,609,575	1,699,575	1,205	1,205	1,700,781

当事業年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本						株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		利益剰余金 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	特別償却 準備金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	90,000	-	-	5,536	1,604,038	1,609,575	1,699,575
当期変動額							
新株の発行	1,095,030	1,095,030	1,095,030				2,190,060
特別償却準備金の取崩				1,226	1,226		-
当期純利益					505,898	505,898	505,898
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	1,095,030	1,095,030	1,095,030	1,226	507,125	505,898	2,695,958
当期末残高	1,185,030	1,095,030	1,095,030	4,310	2,111,164	2,115,474	4,395,534

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,205	1,205	1,700,781
当期変動額			
新株の発行			2,190,060
特別償却準備金の取崩			-
当期純利益			505,898
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	1,732	1,732	1,732
当期変動額合計	1,732	1,732	2,697,691
当期末残高	2,938	2,938	4,398,473

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品

個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～18年

工具、器具及び備品 3～10年

(2) 無形固定資産

商標権

定額法を採用し、10年で償却しております。

市場販売目的のソフトウェア

見込販売可能期間(3年)における見込販売数量に基づく償却額と見込販売可能期間に基づく定額償却額のいずれか大きい額により償却しております。

自社利用目的のソフトウェア

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、当事業年度に負担すべき将来の支給見込額を計上しております。

(3) 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末における受注契約に係る損失見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

売上高及び売上原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約

進行基準(進捗率の見積りは原価比例法)

その他の契約

完成基準

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(2) 繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、独立掲記しておりました「投資その他の資産」の「敷金及び保証金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」に表示していた「敷金及び保証金」50,178千円は、「その他」50,178千円として組み替えております。

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「為替差益」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた716千円は、「為替差益」46千円、「その他」669千円として組み替えております。

(売上原価明細書)

前事業年度において、経費の主な内訳として表示しておりました「消耗品費」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度においては経費の主な内訳として表示しておりません。

なお、前事業年度の「消耗品費」は26,453千円であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
短期金銭債権	7,792千円	30,380千円
短期金銭債務	50,490千円	55,455千円

2 特別償却準備金は、租税特別措置法に基づいて計上したものであります。

3 偶発債務

当社は、元従業員より、労働契約に基づく地位確認請求、未払賃金及び賞与の支払請求(11,595千円)と、労働契約上の安全配慮違反に基づく損害賠償請求を受けており、現在協議中であります。今後の推移によっては当社の経営成績に影響を及ぼす可能性があります。現時点ではその影響額を合理的に見積もることは困難であります。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
営業取引による取引高		
売上高	1,882千円	18,599千円
仕入高	245,272千円	543,528千円
営業取引以外の取引高	853千円	911千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
給与	254,445千円	241,903千円
役員報酬	110,550千円	124,200千円
賞与引当金繰入額	13,048千円	9,973千円
貸倒引当金繰入額	145千円	105千円
減価償却費	2,788千円	1,807千円
おおよその割合		
販売費	45%	42%
一般管理費	55%	58%

(有価証券関係)

子会社株式及び子会社出資金は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び子会社出資金の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び子会社出資金の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
子会社株式	44,217	33,559
子会社出資金	15,747	15,747
計	59,964	49,306

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	12,957千円	10,339千円
受注損失引当金	16,286 "	13,675 "
仕掛品	27,901 "	5,056 "
未払事業税	9,510 "	8,091 "
ソフトウェア	29,682 "	20,164 "
その他	16,627 "	15,435 "
繰延税金資産合計	112,965千円	72,763千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	637 "	1,296 "
特別償却準備金	3,104 "	1,902 "
その他	1,328 "	658 "
繰延税金負債合計	5,069 "	3,857 "
繰延税金資産純額	107,895千円	68,905千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度ともに、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、記載を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

平成29年3月の上場の際に行われた公募増資の結果、資本金が増加したことに伴い、外形標準課税が適用されることとなりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、従来の34.81%から、平成30年1月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.86%に、平成31年1月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については30.62%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が8,857千円減少し、法人税等調整額9,025千円、その他有価証券評価差額金168千円がそれぞれ増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却累 計額 (千円)
有形固定資産	建物	48,046	3,202	-	2,945	51,249	19,161
	工具、器具及び 備品	115,368	21,947	1,520	21,844	135,796	90,409
	計	163,415	25,150	1,520	24,790	187,045	109,571
無形固定資産	商標権	3,000	-	-	300	3,000	1,975
	ソフトウェア	102,605	36,538	-	10,657	139,144	93,569
	ソフトウェア 仮勘定	26,363	12,021	34,499	-	3,885	-
	その他	9	-	-	-	9	-
	計	131,978	48,559	34,499	10,957	146,039	95,544

- (注) 1. 「当期首残高」及び「当期末残高」は取得価額により記載しております。
 2. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。
 工具、器具及び備品 事業用サーバー 17,320千円
 ソフトウェア仮勘定 自社利用ソフトウェア 8,030千円

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	1,847	1,741	1,847	1,741
賞与引当金	37,224	33,504	37,224	33,504
受注損失引当金	46,786	44,313	46,786	44,313

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	翌年3月
基準日	毎年12月31日
剰余金の配当の基準日	期末配当： 毎年12月31日， 中間配当： 毎年6月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL https://www.oro.com/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券届出書（有償一般募集増資及び売出し）及びその添付書類

平成29年2月17日 関東財務局長に提出

(2) 有価証券届出書の訂正届出書

平成29年3月6日及び平成29年3月14日 関東財務局長に提出

上記(1)に係る訂正届出書であります。

(3) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第19期(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日) 平成29年3月31日 関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成29年3月31日 関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。

(5) 四半期報告書及び確認書

事業年度 第20期第1四半期(自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日) 平成29年5月15日 関東財務局長に提出

事業年度 第20期第2四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日) 平成29年8月14日 関東財務局長に提出

事業年度 第20期第3四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日) 平成29年11月14日 関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成30年3月29日

株式会社オロ
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 椎 名 弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芦 川 弘

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オロの平成29年1月1日から平成29年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オロ及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年3月29日

株式会社オロ
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 椎 名 弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芦 川 弘

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オロの平成29年1月1日から平成29年12月31日までの第20期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オロの平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。